三世乃光

五

182.85
Ko518m

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m

ガラス使用

此時に世尊此摩掲陀國の最勝外道婆羅門乃中誰か汝説法を
き〻信じ敬ふ心を発し又ほまれ〻ば
念じ多ふ優婁頻螺迦葉といふ大外道なり其人に
尼連禅河ほとりなる林中にありて火にせる苦行を修ぜ五
百の弟子ありて摩掲陀國ぜんぶ
たうとみて供養すること阿羅漢ぜやうにぞあるけるを是を見
のそんとおぼし其路光白毫相より
六十ぜ賢郎ぢの日毎に聚落のかに出てもろ〳〵ぜ女と
びぬるに獨ぜ女ぢの後を出てゆびさして賢郎此女を

国立国会図書館蔵書
国立国会 25.3.31 図書館
112257

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

とたづねもとめ白畳抹ゆき掛下に世尊の坐しまふを見まつり相好光明をみまもれば心清浄に諸根とゝのひ寂静なる事ならびなくて大徳ひとりおはせばこの女をみのそびやと思ひ又世尊ありと女人ハ汝等ごときの親族ぞやととゝせのふ賢部先ハ何ものもこゝを答せねば世尊ハ女をゝともまをまねきよせんと思ひ給ふや自身をゝとむまをまねきよせんと思ひ給ふや又ハ女をゝとむまをまねきよせんと思ひ給ふやとゝせのふまもらくて賢部すゝ世尊善根功徳の財宝を心にきて大徳女をこゝをと思ひ給ふをハ益なき自身を求ふをまて汝と答まる世尊さらば事ゆ坐をよと告させのべ給ふ世尊ハ光りて一面ゆ坐しめ其時諸仏世尊の法おとゆまもをほどこし給ふ賢部すゝ汝等ごときの者は天ふうまゆ困なゆ五欲乃ものみて諸の過患有と説せ

のび又出家を歎歎して思惟観察して煩悩を断ずふことをこのせたまのび宣ろゝ大微妙法を開示しのふ諸乃賢部ゝこれをうけ給まて心清ゝおぼえいさゝ疑ゐてみまのにうたがひまらゆ又さらに出世法を説せのふ苦集滅道四聖諦乃理をまて世法中の絹をとゝあしびおまぬまばそれそまのやすきにおなじく此賢部先ゆ法をうけのうて心器ねもゝこのなれバこの四諦を説せのふをうけのうてもやゝ悟まて其坐にゐてみる預流果を証せ又ゝにうこゝみ悦び喜て衣服をとゝ改へ仏足を礼し長跪合掌し家等此微妙乃法ゆ入大ゆ勝利を得今よゆ尽形壽佛ゆ帰依し法ゆ帰依し僧ゆ帰依し殺さず盗まず邪婬せず

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

妄語せば欲酒せばともろびをの又佛足を礼して去その衆はそこにわも
佛のもとをれぬまばは衣をはけさせのび多軍といふ村よいらせ
のふ此村に苦行をすてのち時乳摩酥蜜などを供養し奉
し二人ぞ女ありこの供養をうをさせのびほを力とゝおせ弥ひ
ことを我おぼし歩めまば先これを向をのふこの乃家ゐは世尊せてこれむ
うそせのふを見給ふおはれまうけ那どしてむこのをまの佛足をら
し一面ゐ向の世ある像ぞごと佛法を説せのへは二人ともにこれをう
をのゐ乃坐ゐて聖れあとを見とそのふこびゐたへば又佛足を礼
ていふ衆等この妙法ゐなびをま大ゐ利益を好今よゐ尽々形壽佛
ゐ帰依し法に帰依し僧ゐ帰依し奉里殺生せ不偷盗せ不邪婬を決

妄語せば欲酒せば五戒ぞ優婆夷と那ふ慈悲
をもて今日家すこしき供養をうをさせのへとなれば世ある黙
然として是我ふをゐふ世尊ぞ向ふけをびまうこれをひきて供
ぞ甘味ぞ飲食をいときとゐかゐ向ふけをびまうこれをひきて供
養し奉ぞ飯食をもゐ向ふをあゝそせのび佛鉢をそゝだを
法ゐのへば地ぞそゝび番をもゝき我を叡しぬ佛足を礼し一面に
坐ゐの世ある又佛法を説示のび呪願せのふ迦葉おそゝま次を
優樓頻螺迦葉ぞ苦行乃林ゐむうそせのふ迦葉おそゝま次を
奉ゐ座を厳飾せら敷せ尊ゐ乃おましにつのせのへば迦八波門
ぞ問ふゐゐゐ我大法はとゐぞとそせのび一ゐ説をを

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

あの相むそびはれば世尊仁矜をたれ一夜をゆるされよとねんごろにこひ一夜をこひてこの乃火舎を貸す重ねて乞ふはあらねどかの石室には大毒龍あまた猿害しはべらせんことをおもひまたは毒龍を損ずるさはほどく考ぐ一夜を借るさへされよと許さず損じまゐらせばばちこころおもはせのごとゆるし給はせばかの毒龍をはらひ火舎をもの乞ひ草をしき結跏趺坐し正念動ずるをみて毒龍世尊を見奉るや口より毒気を吹をなれば又世尊の御口より神力我等を出しかの毒龍をはらひ我ならびにの生捕りて身よりほのほの火我出しぬ此龍を調伏しまつらんをおぼし火光三昧にいらせたまひ猛火を出し身ながら火舎を焼ほろぼし火光三昧にいらせたまひまふこれふたりて此石室多よりの乞ふまは火をえ乞ひていとおやすし迦葉仏の御時の五百の羅漢ここに星宿をえんとて出て石むろの内火をえて大龍火のふをうけんとて火をそゝぎ給ひ我門相好世にすぐれたるをねたみその徳を我とせんとて毒龍乃火ふやうに告て水

身ぶるかまわてなきやうく夜もあけまば迦葉尊子と芸は来
玉ほ門前火にあこれのふ処ちやと四里廻世るわれ内清浄な
事ばかれ災ふは害せられば彼毒飛今鉢ち中にひやとれのひ鉢を
挙て迦葉にさめーまふ迦葉尊子と芸ふこれをうけおどろきてかる
ことはいまく見聞ざることおりといふさまと釈尊子ふたをて羊
少れ沙門神通あれどを家道乃実なるふがごとくみはなくだといひ
ひ降ふ心さらに那ー世尊迦葉ふ告ふ今ここにみてまーせのそん
とおぼ次と迦葉坂て善哉汚心ままのせられよとゆふーなーふ
世ふ尊二夜ふ於て一樹ふもとに坐ーまふ衆まになりて四天王ま
うで仏法を聴聞ーまふおのくおうをなすものへば月日れ光ふこと

巻五之四

那ーこ迦葉おきいでくこ世ふうをうん尊子みむろひ年少れ仏ぜも
火ふつーのくらふーさかうを暁ふなりめまばふまへは来あてふ
火に於うへ尊ふやと問世ふ家火はつくへば四天王尊子ふ法を
きく是よりて光明なーなりと云させのふ此時を尊子ふ法
をて乃沙門大神徳あれど家道のせなるふがごとくふはあーば
と尊三夜は帝釈天王来りて法を聴聞ーまふ乃光明れ月れさ
ーれほはぶおとーまで四夜ふは大梵天王下まりて法を聴ーま
ふのひ大光明をそうるふ日れ中ゆてこもりうふやくほやうまでん
元々れて乃来ことにかのひうをうん於毎ふ法をとにまりで仏ふら
那ーは仏ふ谷なと四天王れまりでのひーをうにおれぐでぁる

112257

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

けるに又其日の夜〻迦葉尼五百の弟子おのく三火ありの〻ごとく思ふ
ふ火を見てびみを呼にせのびてそなはりさまを祝迦葉心のうちに
その為ゆゑおぼつかなくとおもひ弟子と共に世尊のもとに
詣でゝ家諸れ弟子今朝おのく三火ありの〻ごとく思ふ
せそのふ世尊ふらまよ火おのづから滅しと告給ふ迦葉ふこゝろ
大おどろきまゆ毛のごとく弟子ふ帰ふれバまた火ありの〻ごとく
に又消ぬ又世尊のもとにまゐで諸の弟子三火ありの〻ごとくを
そなへぬまば火を消んすほに消ぬと告給ふ世尊の帰られよ
大おどろきまゆ毛のごとく弟子ふ帰ふれバまた火ありの〻ごとく
葉みづから火につゐん空おもふ時もおなじさまなり諸の弟子終ふ

茅をとりこんとおもふに父なるバラモンみる時ふ
らゞ門弟子ぎ〻ゐん空おもひ世尊に告まらるれバ〻られよ父
おのづから滅ぬとにもぎの帰ふ世尊に告まらるれバ〻られよ
世尊ふ時まへふはうでかうと告まらるに〻られよトふ帰ふと
弟子ふ帰てん事ば父ありのみづから滅ぬとにもぎの帰ふ
ぢまの迦葉世尊に告ひ世夏はこゝにとゞまりて梵行
を修し給へ房舎衣食は衆供給しまるらをんやと請ぜ〻新世
尊黙然としてこれをゆるし給ふ迦葉ふ衆僧を率ゐ
ふるさとにかへりその日ごとによき飯食を辨じ坐ゐゆふをしき食
のほかなきまば自らゆきて世尊を請じまらば世尊ふ〻られ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　　ガラス使用

よあもとのおそう法さんをおさまの
つ先ホおすゝほて坐ゝれつまひ次迦葉おどそきそゝ仏門そいひ
まお道よりかうもやうこそれおゝけ糸やと回まる世そみまよ立
このくゝれ後園浮州乃ほうそひホ行園浮葉をとめてこゝに来お
なおとてゝ仏鉢ホ湯た流菓をヌんせるふ此菓我知るやと問勢
来まお色香いとゝゝし食せゝれよゝ
お中におもひえらるに彼道のほど達ゝまのゝふもはくまのゝ

巻五之六

よそゝおうもちにゆきゝゝのふ世尊の神通変化まおとにすみやう
まばことに不思議ゝおそひを於ゝいろくゝ食物を供養せおふ
世そ曼をうまさせのひ兜跋ゝ偈をとの世おふ

婆羅門法中　奉事火為最　一切衆流中　大海為其最
於諸星宿中　月光為其最　一切光明中　日光為其最
於諸福田中　佛福田為最　若欲求大果　嘗供佛福田

食をたてまつるものへば位のふ処ふくらせるひ仏口をそく
き樹下に坐ゝるふ吹お日も食ゝホなるぬまば迦葉こびうらまうで
世そを清ゝまうら法やうておそゝまひ先くられよとおまひく
ゝたまひおれよふ弗婆提ホおゝ法て菴摩羅葉をとおおひ

鉢ふみて〳〵迦葉与ゐ比丘おそ〳〵ゐして坐〳〵ゐ迦葉与ゐ
ゐ比丘ゐ門出ゐ何ま乃通よゐ来つゐゐふやと問ゐら多世ゐ此鉢な
ゐ菓を知るゐととせゐふ知ゐと答ゐら仏世尊これゐ数万踰繕
那東に共婆提とゐ国ゐゐ家こゐ行て此そぎゐれをとゐ来ま
ゐ菴摩羅とゐ色香味いとゐ〳〵ゐ迦葉心乃中に此仏門
ゐ神化まゐとに希有ゐとおもひ種々れ食物を供養せ〳〵ゐれば
これ就〳〵ゐひきおかれごと呪願の偈をとりせゐひおそ〳〵次処
ゐ〳〵らせゐふ鉢をそ〳〵ゐかせゐひめまは又樹下に坐〳〵
ゐふ次ゐ日も食時ゐなゐめれぞ迦葉又まゐで請〳〵ゐけ日も
ゐとゐ〳〵ゐ瞿陀尼ゐおそ〳〵まて詞梨勒菓を

そ〳〵せゐひ又迦葉ゐ先ゐおそ〳〵ゐて坐〳〵ゐおそ〳〵まゐ次仏
ゐ答ゐさせゐふさ仏きれふ食をそ
〳〵らせゐへば倒ちごと呪願せさ鉢ふれやうゐそ〳〵せゐふ其次乃日も
食時ゐ成ぬまゐゐひて請せ〳〵ゐ世尊そゐゐれ方麟巡越
ゐおはゐは自然ゐ糠米乃飯をそ〳〵らせゐひ迦葉ゐゐまきれおい
仏坐〳〵ゐふ迦葉又後にゐ〳〵ゐ問答ゐお聚ごにゐまなゐ
仏食をそ〳〵せゐひ呪願〳〵ゐへらゐ次の日も又おなごやうに来
至請せ〳〵ゐふ共におそ〳〵ゐはさんとそ〳〵うちにまおそ〳〵まし
ぬいろ〳〵ゐ義食を供養せ〳〵ゐれをそ〳〵ゐ仏例の偈
我とき呪願〳〵ゐ樹下に帰〳〵ゐをなゐて食せさ多ふ仏食ゐ終ゐ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

を用ひるそんやおぼ次帝釈天王此法心をもちひなまろぐつて佛
前ふいてまをもて地をたゝきなへば地となりめそろそのときに
ちらふりて八功徳をそなふる此みづを走て向鉢をみたきて
口をとそてがせのひまより帝釈天王ゝ為ふ種々に御法をとう
時のふ帝釈天王うけのふりてうゝ悦てて天宮にのぼりて迦葉中食
此後林の間ふ独り坐世尊のたまへとにまうでかの泉をそのの
うちにおどろきて向ほらは家をたゝう此林ふ坐ましあ
座ひにのりて後ふこれ泉あ何人ぞこれを形せーやと世尊
先ふ食をうきをへまて食はて後水を用ひんとおとをし帝釈
天王汝心をもの来つまて指をもて地をうち此地をなせーなると

告のふ迦葉これをうけのの戒法の如ほのふおそろしまたことを勿
恐ぶゝなほ心はなうのけや世ふ乳日世ふる林ゝ間ふ独行ーお
りはし糞穢ゝ中ふいろゝけきぬのやまたる処などあるを向覚ゝ
知うさせのひまをあゝひきとめ来真掃衣にせさ彼のそんとお
ぼ汝法心にあをもとめたせのふ八帝釈天王香山よおりーはして大いな
る石ゝ槽をそうの来ゝきうゝかに彼ふをとうて洗うせのひ
て石ゝばみせ垂せなそんやおぼ法ほろを帝釈天王ゝやう勿
のひ大壮士乃ぢうをそでめ又ゝたりゝ那ぢすゝだうゝ間ふ香山ゝ
上におりゝ降りて四方なる乳石をとりおもりて林乃間にゝき此上ゝり
て衣をうちゝきせのふやうゝ申と白ーなりのひやこそ天宮にゝくらせのふ

世尊はこのうきめをちらし給ひて樹下に帰り坐し給ひぬ次
迦葉こてまうでかの石と槽とありさまを見給ひて此二ツの石は
いづこより来れるやと問ひ給ふ世尊あまりさ迦葉を哀れと
心の中に世ふいまざなりぬることを思ひ給ひおどろき給ひと
日せる彼指池ふおりまして洗浴せさせ給ひ岸ふ杖ずらせ給ふ時
ひずさせ給ふ迦羅迦といふ樹なり杖をそれ池のうへふ迦羅迦
至てかを池水ふうつたまふ此樹神此木杖をたてあせるれ
させ給ふ料ふ生せることをよろづ
つ池次迦葉まうで迦羅樹杖枝の事なりぬ垂給ひたるなり
やうみて世尊に向ひ奉ることをひとつをかうせ給へばこれまで

世にいまざなりぬることを思ひおどろき給ひぬ
こおうそこに思ひ給ふあり次ひふは國王入らせ給ひぬるく此民
婆羅門長者居士など来至ひつまつりて
此ひ此門家ふおひてまさであらんもの人此門乃根好神通
威徳をそばみる我をすてゝ此門ふ奉事せんやうかう念せ給ふく
を出給ひぬそこ乃日より檀單越ふゆるせる七日七夜のうこに
おひてまた次七日の食をたもつ人皆去ぬまば迦葉ひ此門の供食中
家ふ来てものそばりひとあるひと抜びくふ集
食おもてふ義食あり却ひまたばくやうせんそのを
生おもてふをせ給ふ念じをたてられぬだうまうち

に迦葉おまへ不肖そ〳〵陣たるせのふされば汝ぢ
おどろき此ごといつこにおもひけるやと問ひ給ふ
王大臣をはじめ給婆羅門長者居士四七日廿中集會れ聞おも
らざることを念せ歴劫ゆゑ不知事あめるをもと迦葉これをき
家来らむことを我念ぜらるゆゑ不知事あめるをもと迦葉これをき
起いたりく驚おそろう身けもたつだりにおとと疾又ある日世尊
優樓頻螺迦葉が機根やうく熟し今日個伏が時いきめとおぼ
し泥連禅河ホおもむきそこにおそ〳〵ま魔王きた
たる所足を就し世尊今涅槃し給ふ今涅槃し時なめとかう三度請じたてまる
巻五之十

世尊ホ今涅槃ぢときに迦葉四部乃尼比丘比丘
尼優婆塞優婆夷いまぐ具足せざる度すべきをのま
だ度しをさゝらざるさらく乃外道衆いまぐ降伏せざる
ゑり涅槃ぢと乳ホたらざるとかう三度ともたまふ
魔王こを乳をきく〳〵ゐ語にうまへなのやまく〳〵おほえて天
宮ホのへつゐ世尊それのの泥連禅河ホいらせたまふ時
神力をもてゐを南方にわたのそらをゆきなひそ乃形のを
ほのませるのふあゆ雨をものふ処はもあたのだうのにかゝきあ方
おゐは波いとそうわきあがれまた加葉末子雲ホ船まを
こに来ゐまを乃よあ時ふまこそホ水のなきみみ

形ち塵ちりのだこのみなれや希有なりやおもひねごろき
て沙門ふるにたぼほんとおもふばやと阿羅漢
と云たまひ私乃ふことよりいつそたちせのそ給加設ゆ
おもち汝次迦葉ふ私ふことものうちせるまふてすまつも
うでのちふことなそれ多私とこの形ちを見ゆく希有なり
生おもひおと給ひ汝はじめ弥を降伏しよりみたち
ちまぐにふぐぎ私神力をなまふごとにとふう
おどろきおもひ私ら年状私沙門ふ阿羅漢をう依
ど家道私まことなおおはとのぶわの阿羅漢をう依
ぶおとそゆはたぐぶおみひて慢ず私心なれや汝ぞあ

汝今日を此界神力を見まふ又例私ごとく形ちまば世尊
汝阿羅漢ふあらんぶまふこれ阿羅漢道ふなぶ古私にたぶ
をちらぶおもてをつちふして家道遠あるといひ大我慢我
おこす思なれふなぐぶやと告させるよ迦葉ふのみことを
をのおと汝き恐私そぐりゆおもそ汝ふことを身ふもちふ
ふそふまば分私毛も竪面もちふもちをれて瞥首しる
てまふ今大道人實ふ形ち神聖なるわの心をもちたまふ
唯神ぶそふは大仙ゆまを摂受しまふと白しまち汝世尊汝
手なきこと百二十業又手子なごといと多し國王大臣も皈依
せふそ決定して家法ふいらんやなれば先手子とそも

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

議論せらるゝ〳〵とき舎利弗迦葉曰ふの如く
等の師我勅のまゝに〳〵住らんや迦葉肉心ふ決定せざる
どくまて汝子と共ふ論ぜんとて本処てこの
等を除くの外名聞の為ふにこゝにとゞまるものなりとて
乃神通変化を以て奇特なる智恵ふろう〳〵して
まさく死となるの安祥ふおもふ海等
世にあるべくもあらばわれ彼法ふ帰依せんとおもふ海等
はいかゞすと問まて家等が気とこゝろはみな等者我恩な
ま〳〵社のふその法いのでゝむる
しからん又わ等もまた有るべくの奇異のふをみ

住の者必ず之法をうべんとおぼ
し共ふ帰依せらんと白次迦葉ふ
等我ふみとゞまりて家今ことくの子と共ふ
事除疑ふは其師ふ家を損受しまつ
拉と死たまふ之ふ迎葉我ひぎおれらが居夜ふ
なるべき世ふそれ応ずべきとこゝろ後ひてそろ〳〵四諦の法を説
せのふこれをうるものゝて塵を遠ざけ垢
次第ふみ法の眼浄ふて阿羅漢の果ふ
これなんて共ふ出家せんことをおもひ世ふむうひれらが大
師すでにこの如ふ摂受せらるゝ家等も尊師ふまさぐれたてまつり

法なるべんおとを常ふねがそくは常師共ふ出家すること
しものことこひもら涙世そう又善来比丘と称まへば髪そげおの
ずから袈裟は衣と変じて二千余の門人なりぬ世尊まさ
四諦の法輪を転じのべば五百比丘尼塵を遠ざけ
垢をそそぎ須陀洹果を得漸くに法を説して阿羅漢果を
感じのこり迦葉尼乃迦葉少そうくれ弟子のまうで来ふ人らも
その下に迦葉比二人の弟あり那提迦葉伽耶迦葉といふおの
く其眷属を率ひて来ふ師徒ともに世尊ふもとこがひ
望みて去なまふ共さ海ぐのうのうを称ども名れまゐく流きてりぬ
二百五十比丘子ひもて泥連禅河のくらにて法をすめるを今更ふつつふ

汝具乃悪くなごのれ来ぬをえいさおと称きあやしみて家尺
何の不祥ことあらまて矣ふつつふ具れるこに流きた海
ちらん悪人ふ害せこれるふもやなくずやと共ふ泥連禅河
優楼頻羅迦葉比おそそり処ゆきてんらぬ
さそりうちざうの大石ひとうもて
も方にむこのびるがやうくもりとの見なまた海人はゆきあいぬて
ら社とおもひ取等ぶ声ひみの仙聖をろくれ弟子と共ふい
ぜそこうおそりけんもり全新びもりびやと問ふ彼人いふまごこ
ひのみは五百の弟子と共に髭曇乃もとにおまして出家し道を
法なるびふと兄弟これ好きくおもそびなるることのれいうそまし

ことゆのならんといひ共ふ形ぞき　ゆのおなれば阿羅漢
道をすてゝ外法をもとめ形らんいをあやしきことを形
つゝとて又いそぎゆきて石らゆそう勤しくてゐるそ類なきそ
素形そきみな袈裟をつけおそせべいと
ま〻脱き拝して兄えらゆ大阿羅漢みて形らびなく名十方おきさえ
恵天孔下に形らびなく名十方おきさえ仰ぎまざる外者な
しこのなれは今そ乃法をすて他ゆもとめ学ゆふそ乃心ねゝ
うこゑとなまばちあやしき海ふくいとこゆまをも世そえ
じ先て家をやしにおはしまして石ゆ形そ
純たまひ三事社高特おもちゆ次ひとつゆは神通をんげ納

ふの中は恵心きらゝく生ほゆ決定して一切種智を成就しな
ふみのまもらゝく人乃機根鈍志ゆ随順損受しつふ世ゆ名ゆ今
ほらも名法形のにいまて出家しまひ道をしすれなゆ家ほ
王法民てうやまされ世論機辨世にそぐれそ形け礼も
もなゞく生死を多ゆ形法ふあゞたゞ世尊乃とうせ名ゆふ
法形えらゝく生死を形久次道なゆこゝ法大聖云尊そあ
ひ名てまたゆえゞゆらもけまして形そ勝形と世ぎ
まはこゝ法形そくまそこもなきちゆきを礼もふたゆと
まりゆ生等ゞゝ形処はみな大兄乃ちゝくなすでにおゝ乃
かみ仏おゝさゆひて出家したまふ山をらと称ゆさそは

おかみそり志ゐで学だんやこいびれ
等大兄とお那じく仏法おなこのみて出家し道をしめ
むとおもふなんだ等がお後はいくやんとたのねられらくの
子やまあらご智見すふやこころあはみな大師おを
なのもお仏法おのめて出家せんとおぼさば初の
こころはやこそてもさごひめてまたらんとふ那提迦葉伽
耶迦葉これを訪ておおく二百五十弟子ともに世尊
おあ所をとに詣でて仏足礼したび初ごそこは世尊慈愛
してわま等我ちの良したまへ生おあらばたてまの種法せる善
ら来比丘等ぬまのは頬髪お剃ぐらおち衣服を変じ

て袈裟と好乾ふてき二迦葉ともに仏法わ私等ごもろく弟子ともてう仏法れなるのみて出家
せんことをおひ仏初ごそこは世尊るなそれみをこおく
聖許おちせたまへとはふ善来比丘とうでせ多ゆへ名
し頬髪お剃ぐらおち衣服と形ちまねて弟子ともき
て世尊那提迦葉伽耶迦葉我はじ兄もろく弟子
おた兄て大神変を現しふ所おに応じ法我とう
等多法ひまふ語したまふ形んち等比丘おゆへ世間の
老死や貪欲瞋恚愚癡お猛火てやこの形んち等は
今まご三火にせこのへてすでふ此ふ道我法ひじ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

我すでに死みきわめ三毒乃至邪ほうもにのこりて身をほろぼ
すことを深くくすみやこのそこまでをほろぼし浄土へ生まれ
死比丘世尊をみたてまつり備法乃至一塵
垢生ほろぼしもなく死ぬぎんだやうに我もたまふせそるさねて
四諦乃法をとこのせたまへばみな阿羅漢辟支果て捨死
ぼめたまひ家まかう三宝みやなさらせおもはふまつり世
尊むこう頻婆娑羅王死上生ぞうかくれ成ど法勢
たはばまがあれを度勢強ま与生ぞうどたまひ
みこをかしもみおとなうけ望きさぎみおこのせ名はを
一ぢをおぼいぢらほに又死王むりこう後うに死ぼ

つて発しなまひし五辟死めねぞそくはわの國ふ仏世尊出
死んまおをそれ大尊敬瞻仰し敬事しをらん説ふ処の
法要悟することをけん法をきくことをけ浄戒受持し
法ぞごとく修せん今時いうぬまば迦葉兄弟をはじめ千乃
比丘衆に囲繞せられて王舎城よおをせり世のふかん國ふ大王む
ろーとふ聚落城供給ふのし大臣百官大阿羅漢とおもひあふ
ぎ敬依すふ迦葉兄弟をふく弟子と共にみれば一となふ
のひたふをきく人々おどろき大王へも奏ーまりぬればいとうおどろ
せのひと人民共にあやしみて優樓頻螺迦葉を尊恵ふうう
して老ふ生もにひとき者なーふ年者老なふ法は阿羅

漢にてぼんのうといひそでん曜雲は門弟子となふそんそれ
こゝをもつてなをきことを彩め曜曇迦葉は弟子となりのひーなんを
いひはなふせ尊やう〳〵王舎城ゑ抜そーほ枝林といふ処そ
けーはに優樓頻螺迦葉にのひなをわたゑ者を頻婆娑羅王
へまねらせてまれ今佛法れ中ゑて出家し道を修し侍ゑけ
ふ佛ゑそうびなゑて枝林よりそゝぬ大王先れ供養したた
まふ〳〵せはゑ大王此をうけ子こと〳〵を学せのひ今そけふ優樓
頻螺迦葉れ世そるゑ侍者となめのひたるれことを主〳〵せた
まひやぶて催はせのふそゑ時大王ゑにえはゑ大王ゑたまふ
世尊今枝林れ中におそ〳〵まひられ人へ天れ中最上の福田なゑ

大王と為し〳〵恭敬供養しのふべし〳〵又國中れ人民ゑもそ〳〵く
みな如来を供養せはせ給へ〳〵世王こゑ乃至れことそ説き〳〵
いたるまでのそこびのそ衆もゑより佛をわたならべ芸は座ゑと
おもひ〳〵なりてそ諸乃大臣ゑも者梵志をはゞめ國中れ民
ふ勅し〳〵おごそゑに道れ大ちひ花をもちひ者をなきそて
けはすきぬゞ佛をもせ王そ羽葆の車にゑのり大臣百官
の馬車子前といふぞうゑなとちきにおたゞき長者梵志
第二子人と芸に城を出んとまさきふ俄よ風ほうりくふき
出てそ乃城ゑを閉ぬ王佛にそうゑふ今佛ふはうでんとするは
善事なりぞ瑞應あるふべきをこゑはたゝきなるれはゆゑ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

なゝんやおぼせば城門より神王に告て曰不利なることゝ
ばかりまで大王さきだち世ゝ八万四千乃王と共ゝ寺を修治し塔を
たてちうふてみさまふ来らん世ゝは必ず一時ゝ法佛をうけまゝ共
に道教をうけんと今それ中乃第一の本拵にあるゆゑ此城門をぢぬ大赦して獄中より人民
出ゝ共ゝ佛をうけまゝをうけをうけをうけをうけをうけをうけをうけをうけ
これをきくのひすうやうふ佛ことをうけをうけをうけをうけをうけをうけをうけをうけ
を出ゝ村林にむかそせゆゑゆゑさまゝるゝ老父母ゝがひ
まゐる乃世ゝは遮越せいふ大ひなる社樹をとりまゝおもて
佛ゝ諸ゝ大阿羅漢はみな乃ゑぞうに坐ゝおわりまゝ王ゝ法ある

世尊をうけまゝのふに晴たる乃ゝ月ゝ星の中に月ゝなる乃ごとく
くりかへいでゝ空乃下あきらかにうかびなる海なく照ゝやくごとく人民
乃ゑぞうのゑおはゝまた威神ことにあるゝそれ佛せるひ光明世ゝこ
えのごとく王のたふ従ひのひ車をまの下ゑ法のみすゝえのひ威儀をと
世ゝ人民蓋乃扇かうむゑ刀杖をすてゝきたる市ゑを乱ゝ
孫ひ教をうけ國王頻婆娑羅王ゑ佛ゝ聖衆を見まゝて
手をのみ仏のぬとかう三度おろさせのふせ尊ゝたまふきみは
こゝま頻婆娑羅王のやくおはせり諸仏天神みな王ゝ身をま
もるまゝなゑと告佛ゝ王は祐をかうむり仏のぬとゝ法
ひまゑぞき一面ゑ坐ゝのふけ時前ゑあ佛者は礼をなゝ中ある

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

あるやかうべをたまうしろなる者はくをを叉みなまをそきゃし
をそふぬ世尊座我坐しをそふぬおを坐し頻婆娑羅王
をなくさめ宮せぬふ大王四大常に安穏におくすや民を治めのふにを
以らちき事おたたびやと王世尊我恩をうむめ仏まて幸
に安穏ぞおく仏と白しまをき弥ふ乃時み王をはで先そに
なりまをたる仏人そきものやしきをを優楼頻螺迦葉我世そる
ぬ子となるのしをえおどろきていふなく如来大神力おハ
しまたこの法年そるく法たるきくをを仏弟子となしのふ仏智
慧ふのく達をおそしまたことを世れ人乃おもひとりはでぎに
あらびと又余我人仏所にまておもふ優楼頻螺迦葉大智恵乃

神変をあらはすべしと迦葉かこ仏ぬ
ぼの所我上ものみをを出しみれて下よの火を出しまた大身
をあらはして大空にみちつまて又小水をなら出しまたある
は一身をおのちて無量乃形を那しあるは現ぬ地よなるふとを
まはやぞそこれ中にはこれ出てまたこれ中にはこれ出て行住坐卧しのふなりまれ
仏人これをえて皆おど敬きそるみされこそ分一れ大仏なを
この会事は昔よりいまぐえんばるふこみなりとふ迦葉こ乃

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

神變をなしそらよりおちまへて
おのもおのもを礼して白しものふ世尊
ゆえおそまはれまをとにせ尊れ弟子ふこそ侍
とかう三度白しものへ八世尊告のふかくれごとくの
し汝家法の中にいかなる利益乃あるをえて出家
事のふ
我於昔日中　所事火仞徳　得生天人中　受於五欲樂
恒如是輪轉　沒於生死海　我見此過患　所以棄捨之
又復事火福　得生天人中　増長貪恚癡　是故我遠離

又復事火福　為求将来生　既已有生故　必有老病死
已見如是事　是故棄火法　施會修苦行　乃以事火福
雖得生梵天　此非究竟處　以是因緣故　所以棄事火
我見如来法　離生老病死　究竟解脱處　是故今出家
如来真解脱　為諸天人師　以是因緣故　帰依大聖尊
如来大慈悲　現種々方便　及諸神通力　而以我引導
云何而復應　奉事於火法
頻婆娑羅王をはじめもろもろの大臣優樓頻螺迦葉の叶倡と
き弥ふ拔きこいたう悦び又更に如来に教信れ心を伸決定
して如来の一切種智を成しものひとをもの迦葉はに佛の

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

法才子なることをたまぐ見らるゝ其時大梵天王は
諸天と俱に来て諸共天華をふらして妙なる伎楽をな
し一異口同音にさゝげていく優婁頻螺迦葉心ひるくこの偈を説
のふと世尊もとらくみ大衆乃心決定してたゞしきを
毒し名ゝ又みな根機も熟せり我親ずのごとく為にも法をとらせ
のふ大王はさらに来べしこれ五陰の身は識をもて本となし識よ
よりて意根を生ず心をもてよりも色をもて法
生じ滅して生ずればらゞ大王もしくかくのごとくに観ずる者は
名けて善なきことを知かく仰て観ずれば仏相をとらえよ
く我く所をたゝ法、あとよりは我おのこともおもふことをこれとおもふ我
相とよる衆所をも身をこれとおもふのふの我身はもろ〳〵

物を求むるが家旦ゞのなどておもひ若よくも
て執着するを夜明おもひ
相きを求ぶれば色れ生ず所は色
衆ことをさとらも人この観をなすを乃これを解脱とな
ぐく若此観をなさばなを名ばけて縛生の法をも
我々所なく倒想なてるこまに我々所ありまだ
おもふ実ず法ありこと知ず若よくけちの心ある惑ひ
想を断者を解脱と名せの時頻婆娑羅王
心乃うちにみづから思惟のふもし衆生我あらと
を縛とせば一切衆生みな衆なくべき

の来報をうけんと世尊はもやうの乃王れ心念をまろめて告げ世尊ふ一切衆生はなほ処の善悪によりてその果報をうくほなり大王ひまらふかゆゑれば主ひ為にをととの眼情塵識和合すればみなものきく者につきて染着をまして想を想をかはぬほことをまぢ此縁みよりて生死をせ流てはぶたり苦しみをうくるを境界に想ひかるる心を惑ふこともやむれ八則解脱を以て情塵識ひ三事の因縁をまて芸ふ善悪を起しまた業報をうくはらに別ひ家なりたとえば火を鑽はまり燧を轉ずほふよりて火生ずるがごとし火はますます盛ふなりぬ縁とをなくしてまた滅ひ

かう情塵識もこれふおなじき形をかくりとの世のふ時頻婆娑羅王又こころをもちて思惟しまふる情塵識和合すほふ善悪の業又果報をもうくほとなりぬば又常と合せばまた苦はこれつづいて断なくん世る四王れ心をさろしてこれふ答ひせまのひてれ情塵識は常形らづ断なくづ仍れ心ふとなりぬば合すほがゆゑに業なりぬたとえば地水を種子をまして芽葉をを生するがごとしまた次に種すでにいでほがゆゑふ業と名つく一切衆生をなるゆゑに断と名つくべからず断常をともに中道となづく三事れ因縁をまてふおなじ雑縁を

もてことをなをさそくとせるくは頻婆娑羅王はみれめをてう
そんし彼ひ心をうけ法法れ中に塵をたちの多姫をそなれて
法眼浄をおのふ八万那由他ひ娑羅門大臣人民九十六万那
由他の諸れ天へも共ふ善塵離垢して法眼浄をは頻婆娑
羅王をはじめ大臣婆羅門等座よりめたち仏ひ法宝ひ
帰依したてまつりて小国王ひそくよく転輪聖王ひそうそうをすて家を出
道を学び一切種智を成じのふれむこの愚癡にして出家
をとどめまつて小国を治めたせすらんと思ひしに今慈顔を
見なめ又正法をうけおもひ遠をそひおよに懈怠ありまま
年月をおなめ彼くは世尊大慈悲をそとてわが懺悔をうまをと

又白しのふわまむこの世尊に白しなめしそうに道をは弟子ひそんられ
を度しまと今日はじめて宿殖成じ世ひ恩をかう妙ひ道
跡をふむこまを得たり今日よめ尽形寿五戒ひ優婆塞となな
ま殺生せじ偷盗せじ邪行せじ妄語せじ飲酒ひ罪をは免なめ比丘僧を供養しまと
らじ彼こは世ひ行園ふおそしまして摩竭陀国ひ者長夜ふ安
楽をはせしそのくと世尊これをほめてひ善哉大王ひくこそ三不
堅法をすて三堅法ひ法ひ王乃至を満足せしむべ
しやかうそのくは頻婆娑羅王は世尊ひ法をうを出家
のひ行園ふすませのそんことをまめてはほしとでき去る

まふ此時大臣王我等〳〵まのらせて曰くむかし
まえをまのさび今大王ひとゝ宿福なくおはして
をわすれ王いたくよろこびあひ迎給ふ大ひに徳
あひまみこれ法をわたなかとて従官をかへしたまふ
にくりたまふ時ふ天帝釈八方七天我ゐる佛上に華を散しくやう
してちかふこれより手ごと乃三七秋月夫人嫉女よの國七吏臣ま
で勅して禁法をやらせのひ施戒をろく世ふきこえのひけふと
ぶあふ日せる摩掲陀國王舎城ふおちはし城ふおせ末のもとり
やぐ法らせのふ頻婆娑羅王こ財すをきくのひ諸七眷属と共ふ
城を出て佛七みもとにはくでまひ法を乳しまりでき一面て坐て

のべば世尊王孔為ふ妙法をとりせのふ王此みもふをうけ
たまわりまはりまふ立右れそばを地ふをを合掌しうや
うやうやうふ白ふまこしたべはすちあゝさ世ふをはゞ先まの
もろ〳〵比丘尼あのいさゝかの供養をうきのへと得したた
てまのらせのふ世尊路延とりて此法ぞうけるふ王八佛の法を
うをのふをふまの思をれして本宮にくものひ勅してろ
今孔微妙孔飯食を辨ゝてそ乃孔ふなのぬまば林座をふ
きはうけかろ市座孔まくに宝のろゞのめをねこのせのふ此法まう
をやそれひぬまば勅使孔たてはいろをぬとやはおのふ世ふる
それちの衣孔をを鉢をもそひあまそ孔比丘尼市のとさ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

きに園遶して王舎城ふいごなるを
はじめ比丘尼所乞食を洗ふこそをしきやうまで
王世尊と大衆ゐて寂然としてやまふかにやすらかなりこゝ
ろぐろ美食を斟酌しおほきにたぐきまぢりに偕養し皆ゐの
せまるらせのふ飯食をたゝらせるこゝろ人ば王みづのらをあらせのふ
佛をはじめまつり衆口我洗をそゝせのへば王又宝乃
園我をて世るにおどろゝなんたぐねゝそゝは朔更ゝのへと世るこ
れをうをはせのふし呪予の頌をとのせのふ

若人能布施　斷除於慳貪　若人能忍辱　永離於瞋恚

若人能造善　則遠於愚癡　能具此三行　速至於涅槃

若有貧窮人　無財可布施　隨喜之福報　與施等無異

王八世尊ゝをはせのふをんまりて衣にうらせのひ袈裟ふ勅しか
乃竹園にもろゝ堂舎をたてさもひ種々に荘飾しゑひ我
いつゝ修理をそりぬまぢ繒幡蓋をかを花をちらし香をさ
きかうやれ佛ふうけ調ひぬるをを奏しぬまぢ王駕我うぐうも世
ゑれ佛をとにむそひのふ法まこ説ふ人々を多うらんかこにまう
でのひ比丘を礼し白しのふ今竹園僧伽藍の修理とてひ
をそれて王唯ねがそくは世ゑるあまを哀愍しのひ比丘僧と共

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

ふかゝにおはしまして佛世尊と世尊此
比丘僧を無量乃諸天よ圍遶せられ王舎城ふいらせのふめ末城
門のあきみをこえたせるふ的城中の樂器ならさゞれどもおれだから
彩り栢た糸末花をふらきそちたるふをかまさる
池波をしてかうぞでき鳥紀よくふき鳳凰孔雀翡翠鴛鴦などの
異教の尼鳥のまりてのまやま和雅ナ音弦出しなどして冬々の
祥瑞ことれたり乃友ぶ爰くもあらゞば頻婆娑羅王をみあとてり
従ひ共よ竹園ふ入のふそ乃時大空よ諸天こもりつゝ娑羅門大
ほよろ人民も王ナ如来ふ僧伽藍をほゞこしまりのふをえうる
みをいたうよ詠こび阿れ心をまつぬ王八この伽藍ナ僧養をもの

ぬ糸をいとうこゞけなふおぼして世尊ナ御足を礼しく宮にうらせ
孫ふ閻浮提乃中ナ諸王世るにまええ年のふ中ナ乃頻婆娑
羅王はゞめなり又もろゝれ伽藍の中ふ竹林精舎ちめそ
あやふふそ乃ナ王舎城中にふらゝれ婆羅門あらひとをを舎利
弗ふ目連とよおのく一百ナ弟子ふ生むそうそてであり
れ世よりそ乃ちぎらふきうこゞ今れ世ふもむひうそてであり
今ふそうはちまれみ乃楽をきこのび芸ふ法味を嘗んとちぎ
ふそふふ日舎利弗樓乃上よめ見渡されけまば次第ふ家を
たゞねて食我こふ門あ生威儀れ殊勝なること世よえのをを
凡人我ナをてそ乃あとををとめらるゝふ乃使うまていふはれと

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

至れ林中におけるは日れ中せんやをうえて食しものへ威儀の殊勝におりませーを告これ我きくいそぎ紀て礼おしまうこのをを問まうおまでぞ云ろくも説のうたで四句偈をとき給ふ

諸法従縁生　如来説是因　是法従縁滅　是大沙門説

此偈我ときのたいーをきく塵を去ばを垢我を法眼浄を得道跡をえて心を悦こびおたえばこれ各それ子ども芸ふ竹抹精舎ゆきて出家せんとおりくこひいく各それ子ども芸ふ竹抹精舎ゆきて出家せんとおりくこひいく

むろ世尊これ我ときろーめしまふなる比丘尼も告させのふ今二人乃婆羅門ついてきて来はみを阿羅漢果我ねべーひとあ智

慧弟一今ひとめ六神通ろ人形ろうえ承右面左面の弟子とるべーかろ

子ふまひおたーほどにかろ二人来てて世尊ぞ礼しを

奉等佛ねみのつまをそうをのりて道跡をねばふ今出家せんこ

と我こひ弘ぐふ願くはなされみをたまて聴許せき給たまえと

此時世尊善来比丘と云ふ給へば鬚髪おのづから落衣ハ変じてけさ

袈ふ名ふ変じて門と形ちのふ我ねうけのまて阿羅漢果我ねるふ二百乃弟子も皆ふ出家をね

ぐふ世尊善来比丘と云ふ給へばみひげおのづから落衣ハ変じてけさ

ふなるあ共に四諦乃法をうをのりまづ法眼浄をねすみて阿

羅漢ね果ふのぼりるのふ時世尊ね弟子子二百五十ね大阿羅漢

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

なり摩掲陀國ニおゐて普ク群生を利益せんをねがふまゝ阿士
迦葉をやう家を出のぞみほとけおはしますハ
ひさしく世尊今滅度ときいてもゝあるゝ
この世のひとなることをなげきて廣厳城ゝ多子塔のかたわら
おもて樹下ニ坐しのぞみ迦葉を待
ちうけてりうやきのふ迦葉と
まみえんがためとてたゞひとり諸根さめ
如来ゝ儀貌端正ましてゐ相好たぐひなく山王ゝごとくにおはしまし
して一心みざまのそば金色ゝ光あまねくてらしたてまつるいとうやうに
見たてまつるといふうた

せさせるべし迦葉いそぎすこしてえげらう比丘を
てまつらせよ世尊の尊衣はいたうそらくあらうなりとみるべし
衣くはたれみてうをさせるべと称びあるふ世尊わづ麻弊糞掃衣
をを得るやと向せるべば衣そたまえれ衣をつけ
侍らんとそうくたせるふかくて教ことにそふ侍しまつるも
座まそまて八日ふ成ぬしぜみ我り絨毯しやうをのふ後ふ頭陀寺一れ大迦葉
さ七日ふ那ら漢果を阿羅漢果を説しぬ
尊者ぜて世に利益多くおそ侍しぬ涅槃のときこれりを
付属おはしぬは此る者あそれまた又そ王舎城北中に
ぞとり長者ある世尊比丘衆とを請ず奉りて坐すを家よ

にて供養しまらん世おを給孤獨といふ長者憍薩羅
國よる来ず此家ふやとあまぐ私ゆるふり
家あそでそ起出てたうひ人を起ー薪をとそせ火、
多をこさせなどて諸の飯食なそうて
みぎ地をめぐせ又ぬなほおまをを
ふぐぐからたそぐればあろうどそ
これらん世おひたぐをやで起いでであず
侍うけをなるやまれん人を請ずの世
のふやそふたるみでいる世間ふたふときを請ず奉法ふはたう
にぬなば仏世尊比丘僧を請しまらんとおもひぬはよ食

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

まうけんとて心をはげまし信ずるところ給孤獨初て佛れいの名をきゝをのれ此世ばかりの事ならんとおそれ後の世ま
ちいでゝ悦び我佛とたのまゝほしいまゝなるをやしなひやしなひつゝ日
釈迦種孔中よりたゞしき信心發して衣をきて家をすてゝ飛ぶがおもむき無上正等菩提を說
ひのみを佛とは号し一事家と又給孤獨を僧とたのまゝほしいまゝなる
淫人をやとひ四姓の中善男子ありて淨心を起しみほとけ
まいらせんとて家を出道をまなびの如く比丘僧とやどり
尓給孤獨それ佛と比丘僧とはたゞ家ゐいらせのくばなくば見まいらせんそれ尓
け家ゐいらせのくばなくば見まいらせんそれ尓

とき又入て祇尓おとひをはり佛よりをて祇むやうおどろきたのもしくて夜はまだ
みづから立出て城門ゐゆくに乃國ぜ常少て中夜ハ三門を閉て
初後夜ぜ分は忘らきぬれば城門ゐ出ぬぐをもなくて門ぜ出ぬれば
ありてそれが光明りてまぎいとおそろしくおぼえて立帰らんやおもふそれと記此様ハ天神あり
て光明をもなも城門乃外ゟ寒林さゝぜ間たのきらかゝり
ぬるてそゝき事なれば神又ばけて曰長者立帰らんと思ふ
由ゐなれすみゆゞ大に利益たのこんと又須をとけや

駿馬満百疋　紫磨金百仟　馭牝両車輅　其類皆有百

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

載以種種物　而用行擅施　不如發一歩　向佛之功徳
如是等校量　十六分中一　假使象百頭　皆以金交絡
復載妙宝帳　而用行檀施　不如發一歩　向佛之功徳
十六分中一　復有百美女　姝嫒中最勝　頸絡妙珠瓔
瞥掻衆宝剣　如是行檀施　不如發一歩　向佛之功徳
十六分中一
尓乃偈を説くもく立帰らんとおもひたれ人ありバかうハホーゐと弘んごそに告ぜ者あやーとおもえざれゆうは必ず利益あるべー
弥ふやと問天われいむう仕善友摩頭といひーなら世にあるまと
き舎利弗尊者や目連尊者を拝ー信心をもてたふとみらやま

ひ礼拝をまつり功徳ゐより命終まして四天王ところに生れこの世
北守まもりて此区自在城門ゐすめりむうれちぎりを思ひてたぐ
ひなりと長者これ弘きていとうれくおもひんれ中ま佛ハ異生
ま超生ーのふおなご聖尊やいとどー餝れ聖中はおなーかーぐ
説のふ法ゐふこく尊重すべき形ありてみないたく病ひのふまと心よおもひらやまひ天乃光明
北守のにたどりの寒林よりきて世尊は給孤長者北来弘をま
該しめ佛寺北みどれほとりに出ー行ーおはーまひ
強ひと良志づなる処ゐて歩み行ふ今ーて法を忘念するなり長老ゐふで居士乃法をもて世尊を
向礼ー奉ゐ世尊須をもて答ぢ世弘ふ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

離一切煩悩　心不染諸欲　得無漏解脱　常得安楽眠
断一切結縛　心息熱煩悩　寂静得心者　乃可安楽眠

世尊此頌をとき給ひし後給孤長者とせきの一長者すみて佛足を礼しとりそき一面に坐しぬまバ世尊常に法のこゝろを妙法をとかせのふ光布施をなし功徳戒をたもち功徳をもて天上ふまれこゝに世また〳〵功徳なき楽みをうくる事を欲とりせのふ又をうくれば欲乎々々煩悩を私ごふ尽きにあら〳〵ざるをうくれバそのやまちふて煩悩をうくるふかをとゞせのふ安楽清浄り妙法を観する殊勝北功徳ばかり免れうく此ことわりをとゞせのふは長者いかゞをなく覚えて悦び尊たつ〳〵法をうく勝法をうくるふかをとゞせのふ世尊これをきゝ給ひて苦集滅道諦ことゝとくせのふ世の中ふきわをそむるになく清らなる法は深た法もなきやうふのうきごおゝく長者心きよく成ぬまバけみちをうるやごて座をたゞずして四聖諦を説し法をたゞちに疑ひを断他乃をく救うけだ他よりきつこうやざ給孤長者坐よりたち偏ふ肩をぬぎ世尊われすでに法ふの里佛法僧小帰依し奉る今よりふ尽形寿なく殺生ふる心を起さゞとふ乃ふ世ふる長者小汝ご名字ふ形みぞと白せのふ長者わが名は蘇達多旧訳せりひけれどわ孤

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

獨れ者我子それみたすきを作れバ世のくに衆を給孤獨とよび佛
なり世尊舍衛文長者いたまひ人そと問ふ老婆これより北
せうさ橋薩羅国祇室羅伐城の分小村なるまかこにす祇里
唯祢ぞそこは世尊室羅伐城ふおそ供養一まらん少世尊とそ
けち勞なく家世尊比丘僧とに四る供養一まらん少世尊とそ
せのふ室羅伐城ふ寺ありや少長者なーと答ふ我ちーバ寺をほく
須べー寺なくば比丘僧と共ふおはすー波ちん少死まふ長者かくま
まてあまま寺我いこ造る室羅伐城ふもろくせ
のび比丘僧を安亜一思惟瞋念おもち一波させのくと世尊默然
まして世諸をうをちせのふを老者世尊の添はせのふを知ふを

礼一退きぬはて乃王舍城中れこ也を仕をくてふたび世尊
のまもとに波ふで波足を礼一一面ふ坐一白一女尊家今
室羅伐城ふ帰里佛寺を造ふべーみひとり
れ大徳をとゝなひなちん我はは事をゆるはせのくと世
尊これ我きうせのひたまりなく室羅伐城孔人を調伏せん
やと念一はせのふ舍利弗れうーおにおちーほて利益多ろ
らんことを志ろーて具壽舍利弗に告さ世のふ今より老
者ふ共ふ室羅伐城ふゆきかけんぞくをはず免室羅伐
城孔人我観察一教化一寺を造波べー少舍利弗佛勅を
うをのひ波足を礼一衣鉢をとり長者と共ふ室羅伐城よ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

おもむせの小蘇達多道けてなどとぼ〳〵あらば出こゝ
なる長者長者をすぐ〳〵を心の中にたゞうみ寺をはじめ
さほをおもひ処は城よき〳〵ぐをちらば林泉などんどころ
ありてお寺を造るよろき処をこの文静ふしてかまびす
かゞびなのうるさそうら処蚊虻蜘蛛などれもなき処を
まほしなどおもひたゞをやうく室羅伐城よりめぐらもに誓多太子并
少し勝地をもとめなきうるをから次ふるひる
領じの園林よゆきあり并園は城小去うるなり長者これを又落より
去ぶうていゆきて太子并官処よゆきてかの室伐城あるべせなくわませるそ

為小寺舎を造らんとおもひ仕るなあと私ぐふ太子かこゝは
その園よなくぐ苑林なりと答ふ長者苑林みてもなれ家まあ
たさき勢のくとおふ太子こゝのそこをこゝふそれは太子
これ家が苑林我愛ぐ誠ふすてぐ〳〵たと乞かれ苑林さあまそく
こゞねを布さをほこふべ〳〵ぐ金長者是をきて太子ぐこゝを定
元のごうちくば君こゝをとらせもひ苑林をば家よ属をさせ
なくとふ太子たれゝあゝひを定めたるそと長者君みぐ〳〵定
めのふとけはゝそひ定はゝくば太子長者史若さおほやけを
断事人死処よおこて判断をさん史おぼ四天王天宮
殿ちまた盈こゝれをたまひ給孤長者ご私をたすをんと

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

おぼつかなく断事人と為りて法司に坐す。時に大子長者の推言多く大子を長者を召して判断をこひ、長者をとゞむる事なんぢ等ふたりの為に判をくだすべし。時に大子長者の断事人儀して曰く、園は長者の属なり。大子はこれを判ぜよと。時に大子長者の言を聞きて心ゆるびとけ、歓喜して帰りぬ。長者はふたゝび車に乗せ牛馬を駆りて家に至りぬ。園をば大子に与へぬ。

巻五之三十五

園をおれよくすべしと長者家主にいひぞく心ばいでまた義をひらんやとおもひさだめ、大子これをきゝのひて思ひ、かくをなりと思ひ、きもいやしきも捨ぐうする宝をけ、長者かくをしぎなふ出すは乃ち仏法の威徳の不可思儀なおそれは説せのふみだりを不可思儀なる仏の名号をとなへんと教へ、心にきめまゐふむなしくみのりいまざまざまを忘れぬ処は、ふたゝび寺を造立供養せんと教へ、長者に寺門を造立供養せんと教へ、長者に寺門を造立供養せんと教へ、長者に寺門

まば若き者死処ゆきていま長者は寺舘たてて喬答摩
ゆへは供養せらるゝ少きく何ぞ心ゆや家等ちきふすでは界
をわのれ王舎城は喬答摩居止すべこと孔室羅伐城はまこと
ら住すけゆえにて為ふ寺を造るべくと長者て境を
くばりみづから国のはらえひを分たる家
わが寺を造法功徳はわがごとちよ他人よかばらふさとにあ
らずと分道元若者れてろくくくくけきれバ王のまと
にまくで法ぶちふこまのらまをみふ法よ又長者にもちはさまバ分
道いちくそらたくおもひまをなる家おまもちて家等ちい
ふ若者乃志ゆは従さで喬答摩社上首の弟子あまらとともに

論議一彼もかちなど心乃はらに寺を造るべし若者ら
はゆきて舎利子に向もうし申きれちバまりて報せんといひおき
やごて舎利子みもとにまりでゆ足を礼一面ふ坐し大徳
諸孔分道わが寺舘造立供養しまふこまを制してゆる
し給ふばまでといひ伝るふは喬答摩ゆ門乃上首の弟子
今け処ゆまもきくもう家と論議してもちなで為ふ寺を
法く法ことを舘ゆるちんやとゆる者舎利弗け
こゆ舘きりせのひて先観しまふに分道孔と見ぐくと室羅
伐城の人とみるもり孔善根因縁あり又ふ乃人を調伏孔縁
われよりふゆる立後七日ふあくまる注此事に利益多ふらん也

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

おば給孤獨小告のごとく者孔心よりて
れ後のち應ひつゝ汝なんぢは論議すべし長者これをきゝていと
とうまことうかゞひをなうおぼえをどうのごとくもちていそぎ
分道ぶつとにゆきて今より七日れ後のち集りあつまるべし彼尊者そんじゃ
きしのそんじゃをねがひ道應これをきゝて七日れ後のちといふは
いう彼かの申さるゝ又は律侶をとも
究んじやおもなしむとおもひてかさねてさゞめくいひつゝたまで衆等も當宗れ
ひ汝なんぢをとゞまらしめ友をもとゞめ立おれ本宗より違しゐたる友をと
志こゝろとらく幻化をなすこれゆえんをかの尊者そんじゃ舍利弗は給孤長者
たのまれまことに等しく差別さべつなし赤眼しゃくげんうをゞひて時なりぬ
ばなり
おそれおもへば日毎に立おれ四すに律侶をも
七日をすぎぬまに給孤長者ぎは
座ざをしき尊者舍利弗そんじゃしゃりほつ料とな
は分道ぶつ料あつ法國ほうこくぶつをきゝてみな來集あつまる他
乃國々だこくぐにの人ひとゞ
第とい數かずをもつて乃ち
ん中なかをおもてとなす又ゆうぜんごんこくぶつ
なのまゝ尊者舍利弗は給孤長者

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

眷屬に圍繞せられて此会に來り
座を占めて恭敬し中たまう
多みをふくむ威儀ととのえ論座ぶりなどせず心よき者あふぎ
承宗をたて妙破すとせんや妙宗我
赤眼こといふまでもなく宗破すべきやうもなし
はやだて化してたなり蓋没羅樹を形すべき
起こきみ我むすぶ人をあふぎえて
どに舎利弗ばかり未根ごめにたをれ

枝とみるをれて去てこれらにいづちとも
池我形すがるき池乃面ふ蓮花葉
めでらるこぶにほとなく舎利弗化作しふ象来りて池ま入
葉我おり如みあるとけばちぐりれ池
道又七頭れ龍王をいざ舎利弗ど金翅鳥を化しせたまふ
此鳥ふるよう龍をとるまるあて
起屍鬼を化こ乃鬼尊者を目りけすみむふ舎利弗呪我
もてこれ我呪しのばくつまて分遣れ
はちぐりれ赤眼をけいるほびのすきは
わすまて座より下り五体を地なげをて尊者舎利弗れ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

乳して衆命をすくひ、もしひろく舎利弗呪力をもちひ神ぐ
ばあれ鬼えへば成ぶ今ぶ今ぶもち尊者ぶ道ぶ為ぶみやまを
説をえば大ぶ信心ぶ起し雙足を頂礼しまして曰善法律ぶ
中にいりて出家し具足戒をうけ法ぶ依ぶて修しぶて
弥ぐぶて空なりて梵行を修せんと舎利弗由ぶしてみ
ぶ仏ぶ白ぶ世尊ぶ願ぶくは具足戒を授けせめたまへとぶ
修習しいくほぞもなく阿羅漢果を得ぶ三明六通をわ八
解脱を具し心ぶ自在なることぶ至ぶ仏ぶ白ぶ世尊ぶ
さぶもち大ぶ形きが如ぶして些果ぶのぶ弱ぶ法ぶ
ぞおもひむふぶみを惜むこぶろ起ぶ信心ぶ依ぶて香を供養せ

ん人ぶも愛ぶ染ぶ思ひぶ心ぶ貪ぶ着ぶ心ぶ起ぶ
して異ぶ法ぶことぶく世間諸の名利をすてぶ集ぶる
人ぶみぶこれをえあやしきぶておどろき思ふ各信心を起し
ぶる者世の人ぶ破しぶくき大論師を破し分道を調伏しぶといひ
舎利弗をたぶまぶさんぶぶるけぶよ舎利弗ぶ久ぶ大ぶ
ぶり微妙ぶぶ法をとぶせぶのへばぶ大ぶ無量百千ぶ有情ぶ
勝利をえぶそれ中ぶ声聞の心を起ぶとぶり辟支佛ぶ心を起ぶ
もぶり阿耨多羅三藐三菩提の心ぶ起ぶもあり三仮ぶ心を起
すもあり五戒をぶうるもあり聖者ぶ依ぶて仏ぶ入もぶり又出家しての在
漢ぶ果をぶうるもあり時佛法僧ぶ三宝ぶ帰ぶく敬ぶ心ぶ生ぶ

ことをそうぬまば尊者舎利弗をと共々よくつまふ給孤長者
をろくれ眷属一切人民皆共にいたう悦び礼をなして去ぶそれ
中に信心のおろぶ法分道を心乃うちにくらみをふくそおのの
おのふ何ぞもたて我ほうけてかの舎利子をこちさんとたるぐふ
先の孔寺ふいまに傭力を那したより我ぶふ那をふんてう
ぬ命をたんをみをこれ同じくうちにまて給孤獨ぬ処よゆき長
者わまを等ぶ勝利書をうそびのふれどおろよりぬ住な
また那ぬ国はぬ那ぐうおぼゆ那くそこの乃市寺を造ぬまふ
おろまぼ家等ふも傭力ぬゆるして使ひのとよ長者先ぶ去
孔市まよほうでか乃分道乃弘ぐ分をけぬこれをきうせめい親

ぬーのふにうまを等みるすく世孔善功法ぬりまうのくふ添
ど度ーぬふ廻まき国孫ぬ添ぬまくせのひ乃弘ぐ分ぐひよ後ふぐーと
告のふそまより孔分道みる来りて傭力をもまりて
て那化人ぬふるぬ出ーわきのふ此ふうひとなのをぬうく
しくか乃傭力孔分道ぬ那ぬたくぬ日舎利弗かーこにおらー
ほーて樹下に独行ーのふ傭力孔者をうぐおはーますをん
与紀をまなりとおをひそをふ此ふてまふ孔心なる此的か乃杖をとれ
て来ふやと観じのへば害ーまうぬ杖をとれ
法ふうれ化人事りおうる杖ぬてお
法我なぐぬにぬ法やといひてうおよ分道どもひふうよかりた

てこれ尊者にむくひなこれみてわ
執杖外人はげて志でらくまく我去
我まるが通られをくをおりて
いよ威法なりわまら害せんと思ふ
それみのふとをいみなこらを我りすれ
まな志くせのひみ我根機に志くひは法を説せのへはをきて
預流果を徴く出家く具足戒我うをんことを彩舎利弗これ
を度くおく具足戒を授のひねみまるの漸次修習く
阿羅漢果て孔がりのふみる赤眼せれおふおくかを添おとを
く釈梵諸天もこをぐくたんさんく供養く舎利弗長者也

無小縄をもとの地我もる寺をもかりのふ時よくわくひのふ長者
まれ我んせ尊をは子もゆ急なくてはわくひのそん何ぞよ
至てうわくひのふと舎利弗実は因孫形けまば笑をぞ今也じめ
縄をもて地をもつ添まばよや浄居天は銀金我宮殿なりた
まの家これをんてわくまりと長者きていくう収びたくに縄
をもちくく大いふ伽寺を造らんと舎利弗長者我形ひろう
大いふ成ぬまはこの乃浄居天我宮殿もちまにまきりてひ説う四
宝我みやをなりわと告のへばいちく収び厳飾をは伽寺我教
我をは伽て十六処我伽寺をはそくる永乃ぬよ六十四院を造立
収みるなをくまを重閣なり仕修理をこりわまば又み乃中に男ひ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

たまのふとぎぬをやうしやく心ばえそこ
ちかく長者舎利弗のもとにゆき
頭面礼足のふたりともにいろをかうむり道を
輪王ましますのたとく一日に両輪儀那半ばかり
のふ長者これをうけおはり帰まて世尊ましま
ますてそれ処のたとをもとも清らに厳飾しもろ
孔雀幡をたて地ふは梅檀ましま香水をそそぎいろ
き路ともまふは雑宝の香爐をおくうる事ものめれば使者を

せて世尊を問訊しまり室羅伐城ふいるを
まふ乃使者世尊のたとにまうでつまて
そりぬまて願之は世尊をもろくれ比丘
給孤独命終んなどは四事がくるる
らん中を請じたてまつり後世尊なるじれ
之は常に安楽ましまんと告ましめふ使者
請しまる世尊黙然としてそ乃請ばう
世尊ましますをしりませるふをんまり後
まるたまをもちり室羅伐城ふむりそせの

静かなる御ごとく諸根悦伏して三十二相
八十種好をもて荘厳せり光明海のごとく
して一尋ほかうなる御さとは千万億
どくかぶりこうまんの圓満しのびなく
すみのそらのごとく空も山をうつすやうにて
輪王ぶ千子圍繞しのぶがごとく象王ぶ象牙後ごとく諸の
大聲聞衆はじめ無量百千萬億の人衆あとはらをうち
うちみかたにおちゐし城へいぶ入せるごとくにて
せるへば大地六種ふうごきふまさに世界大いに光明
ありてそのほとりおづくなりの諸くれ花みだれとび天

如なる御衣をみやうにふり不思儀乃瑞相のおん
やうに祇園寺におはし給ふを孔比丘衆を
坐しふ長者ひまこれ眷屬をはぶふ御まへに
礼しおのれのめふをもめすみて世尊ぶまうさく
んとすふそれふ出ず長者おどろきうまえおれまう何ぞ罪
障あまやかなをきおふ世ふる此心を悲ふ
長者羅ぬ障ひられにあらざむりを此処ぶ寺を造ふ三宝ぶ
どおのれ今ふをゆくとこそむの世に施しく処ふなるべむ
し施し処おいたらばふ出ず一生ふ長者世ふる此法を
しへ乃至ふは立てゆきぬれより咒願勞

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

佐勢のそん生す法時誓多太子法心おもちに世る称名をさきに
生なへのふやうわと念じのふ世尊これをきゝ五種ゐん
妙音を出しのび多ろう徴歎し呪願せさ勢なまび此拘会多林給
孤獨園佛西方僧迦ふほどおとなへさせのふ太子これをうをみ
そらせのびて大いふら孫おび文に大信を起し世尊れ為ま四乃
宝をもて寺門を造立しのふ太孫をもて後に結集れ聖者も
孫れ中に佛室羅伐城誓多林給孤獨園にいますとかせのみとそ
其時ふ憍薩羅国れ勝軍大王世尊れ正覚を成じのふをきく
うたのそてう都すて世尊れおわをとれ法うて世の中れ人喬答摩沙
門毎上正覚成じのへまといふけ事信じがし君ふつふ法ところ

れ者老の六師をれさへも無上正覚を説せたときくおわ
こうちろにはじめて出家しのふいので正覚成しのそん芸法ことにあ
羅じゃ孫ふ世ることれをきこのせのふ大王に告のふ世ふたのぎときこのく
き老れ四の里小刹帝利と小毒蛇と小火と小出家となのこれを
はこの孫んすべて年老き出家も阿羅漢果をれ大の不威徳あ
法行のまゝて

大王應當知　小者不可滅　後若紹王位　必能相蹲害
等れ須をとりせのふ勝軍王この須、我うものをりて世尊れ正覚を成
じ孫ふ孫ことを我もろう又異戒乃人をり孫んずまばみぐうされ善業
をやきほろぐし子孫をも財物をもひとつふしあそんことをおもひん

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

おくちふいたうと云終おびえはおのれ座よりとび下を礼してさらのふ
こゝは世尊は給孤獨園におゐてまた勝軍大王所久しくして淨飯大王
にはうぜんせのふ大王汝せの〻君は太子最正覺を成ど甚深法
をねがひ微妙なる義をまなばんとおもふ〻輩生に施しのふいとか
おくめおらの形体ともなの変じてあまのはらと淨飯大
王こゝ使をうをのひいかう悦ぜせのこゝなからなど何ぞおぼし
出のこいうまへの一昔今きゝおてもたをそれたまこゞろもほれ
ぬせのふ鄔陀夷大ほこれを見まわいの形まへ老ぬおぼえれ
へさをのふや雪美せ一昔まば家太子若ひを修しのふ比そたま
ふんを召みらせおそ一時す処をきゝ一せ免ておこなひのふ法の

正き法をたゞ一時に今世中の人は太子乃成正覺ふ見おて微妙の
法味ふのきたりて悦ふときけど家あるものゆはまゐらせ一人今日
のこりきて消息をたゞふ法もなしば形ふおゝお丸永くなりとおたま
ま正に思ふをまわらば家かこにまろうで佛消息を奉又この人
正養しまらんを養せらぬまでふ法をまりて帰ろ家ものな
みな太子おを一今ま〻ごかこに生るしけふもゆゑ又必ずこらでとそ佛るのふ鄔陀夷うさく
人そともかくそなれ我はこのなごりく事をて佛消息を養
しまらんと養せて添大王きゝば必ず為ゆ事あらばまゐせ

与と雨ふらせのびはをとり須臾(しゅゆ)の間に鄔陀夷(うだい)よりこのふ
従受胎以来　希佛樹長成　我親長養汝　心熱常憂悩
汝今得増長　弟子如枝葉　餘人得快樂　我今唯憂苦
まされ須臾に
汝昔於萌芽　従小我長養　汝今得實果　不復報我恩
汝初誕生時　廣設諸誓願　我成無上覺　度死量衆生
斯事並證已　起大慈悲心　為我及眷屬　願来於我城
鄔陀夷大臣(うだいしんだいじん)よりみつを以て勅使(ちょくし)として室羅伐(しらばつ)城(じょう)にいらせのふ
三日経(へ)てかこにおそくいきつき祇云多林給孤獨園(ぎおんたりんきっこどくおん)にまうで先世尊
(せいそん)
ははに(ちち)を礼(れい)し奉(たてまつ)りぬ

与ませのびのこそこに急せのへば鄔陀夷(うだい)劫比羅城(ふひらじょう)にいらせのふへーやと
尚(なお)ほ添(そ)せるおりはさんと告(つ)のふ鄔陀夷もーおりまふでバ生(う)ひて
死(し)きるまゐらんぞおそおもひ侍(はべ)るまゐれとやなまへば世尊(せそん)きこのせ
のひて須臾(しゅゆ)とのせふ
生死愛網若全除　此即誠無将導者　世尊威力無處所
汝何方使能将去　生死愛網若全除　此即将無全導者
世尊境界無處所　汝何方使能将去
鄔陀夷(うだい)これをうをのりて云(こと)ひ祭(まつ)るをなーたのめて劫比羅城(ふひらじょう)より
里(さと)まりて父大王(ちちおおきみ)へまりことをヤ奉(たてまつ)らんと白せる程(ほど)に六世(むよ)の佛(ほとけ)
の御世尊(みよとうと)使(つかい)は鄔陀夷(うだい)ぞおもひすぐるおはのふるごとく出家(しゅっけ)せん

世尊は使なる旨を聞き、即ち郁陀夷を召して告げたまはく、
汝速やかに往きて浄飯王に白せ、我既に仏道を成じて、
まさに還りて本国に至るべし、王宜しく知るべしと。
時に郁陀夷、教を受けて即ち往きて王に白す。
王聞きをはりて、歓喜すること限りなし。
即ち使を遣はして、往きて仏を請ぜしむ。
使者、教を受けて往きて仏に白す。
仏、時に応じて、鉢を持ち衣を著けて、
王宮に至りたまふ。
王、仏を見たてまつりて、
自ら手づから食を行ず。
食をはりて、仏、
王のために法を説きたまふ。
王、聞きをはりて、
即ち須陀洹果を得。
仏、王の信解の心あるを知ろしめして、
即ち還りたまふ。
王、仏の還りたまふを見たてまつりて、
即ち使を遣はして、
仏の後に随ひて、
仏の所行の処を観せしむ。
使者、教を受けて、
仏の後に随ひて観る。
仏、時に応じて、
鉢を持ち衣を著けて、
城に入りたまふ。
城に入りたまふこと、
猶師子王の如し。
威儀具足して、
諸根寂定なり。
見る者、
皆歓喜を生ず。
仏、
次第に乞食したまふ。
乞食をはりて、
還りて本処に至りたまふ。
使者、
仏の所行の処を観をはりて、
還りて王に白す。
王、
聞きをはりて、
即ち仏の所に往きたまふ。
仏、
王のために、
種種に法を説きたまふ。
王、
聞きをはりて、
即ち阿那含果を得。
仏、
王の信解の心あるを知ろしめして、
即ち還りたまふ。
王、
仏の還りたまふを見たてまつりて、
即ち使を遣はして、
仏の後に随ひて、
仏の所行の処を観せしむ。
使者、
教を受けて、
仏の後に随ひて観る。
仏、

佛のまへ空奏しのふちくばいつれ日のおり
今七日我ここにいらせのふ夢ゝとおそう
しのふ大王これをきゝ彷のふしん光諸臣ふ
修理せさせのそんなれば鄔陀夷世そるはやゝもふはやゝ
まらせのそだとやのふ文れうち形ゝでいそぐ
とそ彷のへば阿蘭若孔処よ住のふとこれふりてこれを修理
せさをのふ拵ふ多林孔寺れちまをきゝ世のひ同じやうふとおぼ
しいそぎ彷ふ像な像志となれは国せうちの立与像ふるひいそぐ
へちて給孤獨園ふは世尊目連ふる者に孔まふやこで劫比羅城
ふむこのひ浄飯大王にまんえんふおもふなの共よゆうんと思ふ人ハ

ふれ心にまうすべゝ空目連ふる者世尊孔ふこと言のまゝに諸大比丘尼ふ告
のふはふゝくみをまさびをらせのふそれ日たちうなの
ぬまでぞ却比羅城ふは何ぞれといそぐせのふ室産伐楼ふ八七日をる
てれあゝせるまろくれふ子てむりそをのひくふ劫比羅城よ入ん
みな衣扱をたゞしうゝ鉢を護持せくれよと告させのふひ時梵天
帝釈天世ふ孔ふ右里に帰らせのふをふ
てまうらせのふ香水をぬらゝ天れ花を散しぬべな像香をたき
ふれ幢蓋をたて四天王はふ前ふすみそそき奉のひ鐃
天ふ右ふ帝釈天はふ左よふむらひのふ比丘尼ふ後ふまさびて
す進ふのふ諸天龍神香花妓楽絃供養し大ぶらにおのそおろ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

まもら給ひ却比羅城中はたやせ尊もろ〳〵
河せやともまでおくりまつりきみひたち
め又又みことのりして城郭を装飾
捧ぎ尼拘陀園よの盧醯多河までの間乃路
まろ糸ろをりけい後くせろをたてきわの
糸騎を歩ら道すぐらろろれ花を散し妙香をたきてむ又
まらせのふ鄔陀夷は先ゐせろよりも
を礼大王社ゐことを啓し奉りて大王待んまらせのそとそほよの
こひかぎりなうおはしまさゐまをかるやうまうのふにて世
ろ八次第ふ略ますませのふに大地六変ふろれ瑞應あり却比

羅城中は國中孔〳〵大子の帰り入らせのふとうけるも恨ひなのまや
兄まら添大王よ乃瑞應をは咲ひ世尊おはしまさ
ばまろせのふひまろ〳〵の釈種大臣百官女共よ出むこへさせのふとを
花を散し香焼たまひまぐれ放まを礼
に拝ひ空にろまおはしますみろろにも七多ら羅樹比丘尼は六多羅
樹なり次第に下らせのふに城よちうでかを引ひては世ろ地よりう人
一仮をわさら路のふ大底はみる大地をゆみのふ大王世尊礼大底よ
園繞せろれてすゐせのふに時〳〵ろ夜礼星の中ろ
月礼ろ添ぞだろく転日礼てまかやきて
此金色ふて方徳荘厳を具足〳〵ろ比丘やうまぞてへさせ

のふ大王はほの〴〵みそなはして佛足を礼したまふ
ひまゝれ釈種大臣百官たちきそひてみな稽首礼拝し奉るよの
城まいらせのふ門前にうえたるものふ時ふいふ
ま集りたる諸人おの〳〵瑞相を見いふおどろきかつ
奉ふ園ふ入らせのひそれ後はを知らく宮ふとゞまりたまひく
厦上ふおはしまして大王にも言はまの友ぬこのきよのふ者
おりまして大王にも先まのもろ〳〵釈種大臣なども
芷饌せれ珍味をもて日ごとに供養したてまつる
を説せたまはほ利益のまゝに聖域まふ入るのふ人教このぎよのなふお
はしまして大王世尊おほ才子にも見まゐらせのふに道徳けうおそ

しまして事はあまきたう少みのふにくんなくおもてしませどもくは
はる年ひちき苦けれ分道などもそかもちやせうそうけうまふ
もろ〳〵のそだせ尊おほのうえらにおりまして大王
山ふ女添やうみてまうそかゞおもちはまして
ごとにおぼされて族姓もたうくかもちも世ふ勝またるふをまのあく
せのうえんやおぼしらの五百釈種家おだ
ほ才子にまのへと勅のふこれのふの賢王釈種を始として五
百ゐ王子ほごとれうえまに出家しのうえんと奏せさせのふは大王
此みこたそれ為に大のふ供養をはうけのふそ乃路れなどをゐれもりを
もろ〳〵檀多をみちぎ幢をたて蓋をこのけ花をちらし名香を焚

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

きなとみる例(れい)せばまだ幼き大王三のみこたちおはすまゝせのふまを陪従
ぜんせそせさせるふまを統くれ釈種乃(しゃくしゅのすなわち)眷属(けんぞく)大臣百官幾千万と
いふだらはとさきにめぐり後(しりえ)ひおうしほ大王獅子床(ししざ)座ふたりせるへバ
もろくの女みこはたよわらはき処よ出(いで)せるひみ乃ちそほひをすきえ
せたを珍ふ大地ちまくまは国のうちけんくちく動(とよ)きも近(ちか)きもく
きのう倒へてなりまわたまふこのれ皇子(みこ)たちは父母を拝(えた)しわ
まを迎(むか)けまふらせるふ世間(せけん)みは今ふをかぎりれ出(いで)さちれバそのの
家々みる心をたゞ一(ひと)ろみるに勢(いきおい)威光(いこう)荘厳(しょうごん)の具(ぐ)よう
な馬(うま)車(くるま)などまてもいろくにきらゝ絶(たえ)くさせるふば見(みる)人(ひと)も
おとろきあやぶまふ先賢王(まけんこう)す陀(なんだ)難陀王子阿那律(あなりつ)なぶどうちの

づきすみるふ提婆(だいばだつ)王子はも心れうちにくまおぼすやうもおそ
はゞせ一ろ出家(しゅっけ)ーろそんとそれたまひーおとろやまかゝけまバ
彼(かな)ど同じやうに出たませるふ五百乃皇子(みこ)みな仏乃(ほとけの)前ふ坐(ざ)ーでの
世(よ)ることを観見(くわんけん)させるふに其阿羅漢(あらかん)をたのふぶきと聖(しょう)
のふまでき出(いで)おなーはをはひとめの出善来(しゅつぜんらい)と称(たゝ)まふ爾(そのとき)
出おぼーに比丘(びく)尼(に)ふ乃五百乃釈種(しゃくしゅ)僧中に白四羯磨(こんま)
を称(たゝ)ー具戒(ぐかい)あふぶーと告(つげ)ー時鄔波離(このとき優婆離(うばり)
ふ釈種(しゃくしゅ)ーをけゞ多人(おほくのひと)の中大王(おほきみ)まに出(いで)ーをそ出(いで)まれよ
也(なり)勅(ちょく)ーのふ多人(おほくのひと)かこまめて賢王(けんこう)れ出(いで)ふ乃(の)ふ彼(かれ)らなるそく
それてそ出(いで)ーら賢王(けんこう)いのなればはだらふ彼(かれ)らふ多(おほく)ふ出(いで)せ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

のこばむこと一ら君れ此の老にかくの如くして世れ中をわくこひ仕まつに今別まなられんまとをかゝりひまもなく又昼よの後いのち君ふ此くまらんやふこそ打まれおもひてぐまをこられ仕まば悩かこうまそ仕まとてたゞ形きやうなる記ぬ賢王何ごまをなぐさめふまとまこれをいとあこれと捨てて白氈をめしもせて地ふ志うせのこひ今ぬこの世のふ妙なき瑠璃なご荘厳れ具をみるまでもなうふ用ひのふまづきもれなまバ鄔波離ふなこのふ余れみまとまちふを荘厳具のうち何せて老ひとろづけ上たおきて鄔波離ふ與のこよとれたまへば五百れ釈種おのくおの〳〵男ふ衣服

をぬぐれ瑠璃なごをみうこへにおげてなこのふ山れやうふ捨あまこのふ妙なき

底生れ中得度せときいたらぬ者たりやと観じ
離れ出家の時なる事を悟り神足
まして何ぞまことなるやと
の小事をうるまでふさわしきを
利益をうる事ふかきこと
利井仏の正法の中には世の中
ことあるをなきをもいとそれ唯
たまち威儀かくの如くなればみな
も出家せんとおもはば吾と共に
をゆるしたまふ舎利弗離

今此世にありて持律第一なり鄔波離ときこえしは古仏なる者
なるをにこそ九皇子たちは幼まれみこなる時に白四羯磨を得
戒なれはおそまふ時うつ里ておそくせるみ佛を礼したまふ
里佛見を礼したまふおもひてそ乃人なるおをもちひ
たいでおまくて鄔波離おまくせ
世尊の向しのふまへ乃鄔波離はわ里に給仕しはまう者なり
見を礼したらんや世尊善男子出家ん法は衆慢の心を除
伏すべきなる里に与ふべし受戒ん前後を走て次とすべ
地ん失礼ん四大内ん分ちとなる事好しや神神は人のう世好しうし
て清しせの中ん尊卑をわすれて法をもておまなを佛道の

をしへとき鄔波離ときに出家しぬまばは礼せらるるのう
ち告たせの賢王ん佛ん申みをしへよりて家慢をそぐきすべ
やのに礼しのふし時大地かんおそりて六種ふ揺波連多ひとう礼しのそ
子たちもたいでおまくに礼しのふし揺波離ん見ん礼すべ
又我慢ん心ん紙そぐしのふと告たせのべ毛鄔波離ん見ん礼す
何ん損益のおらんおそて礼ん見をばはじめて破佛ん心を起したる
ま此皇子おそは心かしこおもちおまくおもちおみをなもちは大
うほぞまく阿羅漢ん成しぬ徳そくみりとけの衆化益をたす
を万ふせんふとそ憎一阿含経ふ説ふ四ん大海あうふ多阿
縛達泉よりいぬ恒伽河せいでふは多牛頭乃口よりいでふ来なの

波利頭河といふは獅子口よりいでゝ南に流れ私陀八象の口よりいでゝ西へなゞれ婆叉は馬孔口よりいでゝ北へ流る此四大河阿耨達泉を繞つまおとりて恒伽は牛口より出で私陀は西乃海に入婆叉は北の海へ入みな海といふ刹利婆羅門毘舎首陀これ四姓乃種姓家を出如来出世あれば本此河の名形ちがひとなりまた海へ入ぬまでひとつ三法衣をきて道をまなぶこれ不同じくもとより姓形ちがひとなれば芥よりも釈種子と稗すゝもいふとなれば釈種の中より出家し道をまなぶ子を生ずるは義を論せば四姓は信堅固をもて出家学道すればもろくの比丘は皆釈種子と名づくべし

生はみな家ふりて生ぜず法より成ぜざるゆゑなり諸の比丘方便をもとめて釈種中より出家し道を学ぶ子を生ずるは義を論せば四姓は信堅固をもて出家学道すれば皆釈種子と名づくべし舎衛に生ぜるは弥勒仏世尊の父母ともに比丘と比丘尼とを恭敬したてまつるゆゑに稗すゝもいふとなれば釈種の中より出家し道をまなぶ子を釈種中より

な仏世尊我が前ホて明ニのて世尊ホ子ホそ
をねこそもつのそん小ゐれ仏ゐ分道女ホ呪術ホてな世ホ愛著ホ
我とめたもの人社見を体処ホて作父の後前小をらせるへよとてねこ
へるふ世尊ホはとやうゐ子ホ此王子ホもそ
ニな仏ホ成乃ホつ王をうを孫ひしあとを至ゐ七ーせるへばそふで
け疑ひをれできるのそん中ホおぼしゐ五百ホ仏世尊を化ーいるー
るのふ普曜経中ホは成仏を化こホ仏ホ仏ホ孔雀王ホとなこーせ
ゐーて見わちをホ成ぎきやうホ形ーー雀牯羅王子ゐ乃至
をねるのひこのるこホおなたホ世めそわつおつほし多くの世ホ社ま人
我すぎるのそとをまつるのそ仏をいふ等仏ホ社ままつまて孫ひ

てをらせるの世尊ホれをうをるひ又皇子ニ與へるのくはみこやぐて仮
ーるのふ世ホるこま我仏ホ後ーて呪願ーー去をるのふ皇子も成仏ホとを志
たひめでなまふ志ホ多仏ホ婇女とぐめて出ーはるのーせーせすホ乃至をいる
うなきの形ーみるのひとぐまわるのそ仏ホ世ホるし皇子王位ホをたぎるのふべ
このら仏必ず阿羅漢果を成ー後ホ社生死ホをうまるのふ
世志ホ成ーホ究ーいざなひちら彼るのふ大王ホをはーあまう宮ホもけん
又釈種ホ中ふと羅怙羅王子ホ五百ホ世ホる共中ふて等仏ホを志りるふ
婦ーぎーホを見るひ苦ホうぐひ形くホれちせるのひ耶輸陀羅ホ人
をみるやまひおそんぐのふ世ホるはもと乃至ふおなーはてみこ
我慶ーホて乃至ホ歩ホす大王これをきりせるひいそぎおはーやーて

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

市已我礼一のひもし必ず羅怙羅皇子を度一のそんとおぼさバ
わが一日分皇子を供養す法あとをもて
なふ世尊心れまふと由ま一万みら世の人は大王ひろく大舎
をまる座をかざらみ乃一日はらおほすまつに供養せ
日になるまば大王皇子とおまたに世尊よ
世みを変一のふにまる世を添と白一のふ世そこれをうをは
者舎利弗おお乃羅怙羅を引きる由なく法せごとく出家を
与と告ほのふ舎利弗三ゐとけれ勅をう
家をあこまるらせのよ宮ぬうちにはもわれを
いのもろのおらん三支人はいまをなら世そるを宮内ふとめ奉らん乃

市心をおすれのそそば六万れ嫁女と共ふたに市所をいきすりくく
れ番我とお義食我まうけなどふこ後をたこ結をらせた
はふ法あこ世尊市衣をを鉢をもちのひ比丘尼と共ふよ
おうたにいらせの一例乃三支人をはぬめみるいお
座我つこ法前になみおそこまず世そ今利益ず時いうぬとそし
先こ神力に乗じ地ふ引と東方れみらにたなふ乃虚空中に
行住坐卧一のひ時威儀自在ふ又火光三昧ふ入るひ市所中与も
青黄赤白いろくれ引うをを形ちなのど十八変を現一たまふ
南西北方も同じきのけ神変をそうおお大空にのぐれるひぬとそ
衆れ衆おと一首の獅子乃座ふおこそれ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

えをも心きよらくたふとみうやまふれば信心を表よふーたまへば
法前にふして法足を頂礼しのふ世尊ふ乃みそろをきらせのひ
四諦礼おとわつま弦もてそろくみおちをせなふされよふ
滋味弦皆らばち心方うごのせのふまやとメおはし歯さんの礼とうち
てみを預流果を證し聖礼伎ふ入ふなふたぐ耶輸陀羅夫人のこ愛染の
ち心おきうれもし随分ふよふ聖果をわなのそ広由ま八礼婇女ま家
うち礼ふまの伎ち〳〵ふくの髻香妙味の飯食をまうけ生ふまづこのら
世尊にきらせふ比丘尼これをきくみ生ふるにうやうれたりてこ
ふおり随ま告まるらせのふはきこの酥のふひて耶輸陀羅今ふのこ
なりぐだちきれ世ふた食味をとてわごの心をうこうせーおとりの今

ちまく歓喜園をすゝめて愛せらんと思ふ家宮おうちにはて
時だふみのちまにそ心おきー今三妻礼煩悩をたなれをたち
わいうなふ妙色業九もわごの心我ふ礼ちまのふ耶輸陀羅しおまをちせ
ちまのふだやこのそ宮を出さをのふ耶輸陀羅しおまをちせ
ふ礼何ことをふりふ乃ちひまーなげきつく今はせふもれ
ち〳〵随ちでとて七宝礼樓閣礼上よふの多身礼ちまをのふ世尊志
らせのふ神力をもてこれ礼描しのふ礼いちみそこなふ
れのふ処をおりーまさに世ふけま人礼生死の海を出さなれのふ時
ま乃ふめとおもふーー四聖諦礼おとちを説せふば智恵乃
金剛杵をとて二十種の我見礼山乃巓をそぐきおとぐくふちち

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

ぼして預流果を證しの後出家せしめ阿羅漢を成じ
尼僧中に慚愧才てきこえのふかき大王をけがしめ奉る道徳
をおこせのひきうく梵行を修しまくはは宮人こるきも多きても
戒法をうを見れ六年目年九二長年月不戒を持ておこたらば
罔れうおぎやふ毎時をたがはに仏道を敗し
みのつまをとてたれみ河へ今摩訶波闍大夫人をもとめまの
これ聖域ふはいらせのひめまど難陀王子羅怙羅王子も世うをい
姉妻子とならせのひめまばはなで出ざし
にまくふおそうはすまにせおそう形ちもぬうおぼ〜ちられて月
花をまくれ法園白うこのね社宮乃うちもほたち〜みまう玉をか

ざれおお御ぼやう守をれくにきもいるとさ〜うおぼさまて大夫人
出家し道我修しまそんとおぼしたもて耶輸陀羅夫人なのぞに
かうとうらせのへばみなおれで恋ふそれたち〜ます其比を世尊釈翅
瘦尼拘律園ふおち御ぼけまばやぞて摩訶波闍大夫人五百の
釈女と共ま彼処にまうでのひせそ乃御足を礼一面ふおりぼして
白しのふ形く女人を仏法れ中にありて出家し道を修することをゆる
しのへ世仏きうめ玉そくおそひとでまあ形く女人仏法の中ゐて
出家し道我修せ去ぬんまを指ばそ女人仏法れ中ゐて出家
すれは仏法ぞちう世ふ後せぼとれまのひてゆれさをなそばれ
ぼしたちぬれかひ形くふ世うへ形れよお千二百五

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

十れうでーと云ふ拘薩羅国におりまーす又舎衛国と祇洹精舎にう毎ーせのふ摩訶波闍波提み後も出家をもと先のおこゆ依ちせのそばせめて祇洹精舎におそーま寺ときうせのひ今なとおが定て五百乃釈女を云ふ伴ぐーをおそーたまひち此みは架裟衣をもをのひ此の乃精舎にまうでのふ車をもも先さでかもよふ伴うでのひめまはひのみふなれさせなそれ出家ふれそこれされ所をて塵おちうにをづまたくみなをだふそれおがーま祇洹精舎どにおそーま寺をふそーを阿難そん一や難そん者肉よふ出さ世のひ此そなうはちまをおどろきおぼーてこはいづこよのうこふおうーはいうそのひそみやとこをせのふ出家ー大成就

うまのふおとは世そのゆ依さ世のそをばせめておぼーたのまりそく利髪ーかさ袈裟衣ををせそれみをとちろうおそーまて余をさそらせのひ後の所世出家ひ縁をまくをのふなりといとあれふかそのそ所ちせのふば此み物語を阿難そん者ふき男心りもいとかふうおぼーいふをてすそひまふらせなそんとおりーて先出家ーく行せのふ家世尊ひみをとにまうでは出家をよきに来請ーはふ座せんとおまひおぐきめのひいそぎ佛およまうて出家を礼一面におそーほし願ふは世そ女人乃佛法ひ中にてのうて出家ー大戒をふ受持ふことを、礼ひをはせのふとう語ひ奉りのふ世そ又まひれごとおまひて此世中のことになぞ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

らへば出者は家にありてこのすくなきものを
施さんを子多くあればその家を
捨ておもむき後ごのおそくも女人仏法の中にて出家し大戒
を受ましば仏法を行かたく又与ふる稲田もまた
ましば即時ふやぬれそこなわれてこれ亦あるべ
すれば仏法をやうやうふとゝなまじゆゑさせるふみけしきもおは
しまさば阿難等の者を大夫人等とのたの命をすてるそんとをまた
ほねばそれまにてうちおきるひぐらうたひてやさせるふ
世尊は法母をやう世を去らせるひ大夫人世尊を乳養しおりたて
るのは摩訶波闍波提の大恩おうまします仏と白のふ世尊はけ大夫人
家に大恩ありもし人他ようて仏

法僧を信じたること、これ出乃恩報じがたし衣食湯薬医薬等
などをもて乃恩をやうずべきにたゞ
仏法僧を志こせまるらせしを大夫人な
て仏法僧を信じ仏法僧ふ帰依し五戒をうきたもち善を
志し集をもり尽を志し道をもり苦集尽道ふうごのび
おく者は須陀洹果をもとろくれ悪趣を断じ決定して
に入七返生死して苦ものきうをもて乃恩報せんおを
いまかう世間乃恩の報ずべきふたのびおれ世を出て大夫人三
自帰をうきのびもう今は決定して正道ふ入りたまふなりや
出家をのぞみたまひし仏の難等者又とび奉りた

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

まふ女人も佛法の中ゝて出家し大戒をうをば須陀洹果阿羅
漢果をも得侶らんやと世尊ゝ告ぜらせのふ阿難尊者
阿羅漢ゝ果ゝそだや侶屆きなゝば願ゝは世ゝる女人も出家
し大戒ゝ受侶ことを由ゐ侶らせのへと佛阿難ゝる者に告のふ侶らバ
汝今女人ゝ為にゝる重ゝ尊ゝき法ハを説ん尽形寿侶やまいべゝゞ
女人も此ハゝる重ゝ法を行すれば刻ゝ更戒なりゝを世ゝ中ゝ
おとゝに譬ゝは渡ゝまぐゝ乾大水の上ゝ指をわゝてゆゝ侶らばゞゝ
告のふ此ハゝる重とはみゝる大僧をうやまひおもんじ阿難ゝる者世尊ゝ
ふもおなどりゝゝべゝゞゝ乾ゝ法なの阿難ゝる者世尊ゝ
をうをゝみりたまひゝて大夫人のゝもとゝにおゝまし女人佛法ゝ中ゝに

て出家し大戒をゝゝゝ法ゝを詩侶せのふひめとおのふひ女人乃為ふハ乃
あやまちをかゝべゝゞゝ法を説せのふことゝ
波闍波提侶ゝるゝびかぎりなゝ世尊女人ゝ為にゝ法を
のゝそゝ家をはゞめ五百ゝ釈女頂ゝ奉旅ことゝゝゝゝゝ
なふ優鉢羅華阿希物多羅ゝと
れをうけてゝゝゝゝゝをおくゝゝゝゝゝ
空拒言ひゝゝゝゝふ比摩訶波闍波提等ゝ
此ハ致得はおゝゝゝゝゝ

女人は波羅尼延上に或叉摩那の戒を受（法女とゝなまを学ぶ）を二年修学す故に二衆学戒といふこれまでは尼僧社中にて受法なり此二年後より五衆中にまうで大尼社戒を受そて乃法おごみくなる者ふべきなるべき今未法弖世僧尼の数のごとくなりとき女人も菩薩戒瑜伽弖羯磨ふて具足戒等満弓ごと大律師に随ひてうくる故に法儀なり阿難ゝ者又世尊弖もとにまうでのひま弓を乞摩訶波闍波提ねど究五百乃釈女弖八不可過弖法を頂受し戒をうけのこしみまうちまを白し奉るまの（巻五之六十三）

ゝ般ぜのそば女人出家せざるをば仏法今五百紫世ふ住すべきもゝをと告せのふに阿難ゝ者もいやゝうおぼしくまこゝて女ごをたまぢ弓を礼しめざりをもちて去のふ中本起経よび八敬弖孫をいのこ添中ふも仏弖説せのふあごの正法千歳さゝん弖世間弖道異学弖世にかゝこきやうを敬ひそゝみ四事いろゝ弖供養の物をもて惜まゝゝ父母をときて地ゝきわの為にあゝ上をふみ渡弓と請ど日月よりふ添ごとく天神につうふゝらおゝくすぐきを今女人を度す法ふうに五百紫にいたりて却弖後へんと告せのふこれみな女人の勢恵なく徳ふ守けまば三世法仏れみ法をうもちゝ世間を利益

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

すがおをおすれみさをてたゐ弘にえぼーてくなる形ぜそてう
おとこれ形ぐら出家ぐらひよ女なきま市法をも芸よい後し免らる
弘比ゐやまもおらむ的恵上人をも尼法師む在家の人ハ供たるをえ
のひなどのせのひけ原とゐや大方便強ホ此孫をとるせのふ中世尊え
ほおぜ憍曇弥摩訶波闍波提ゑことう三反出家をさるせのへど世るゆ弘形
のそぐこれゆよりて阿難尊者猪ぐをもうのふ過去む諸仏皆部
む応みなそらせのふと兼そ原もを如来ひとゐ具しのそざらんや
と仏これぜきうせのひ憍曇弥もし大精をを起し八教法を修
しおぐ仏法に入るふあと我ゆるもせのそんとれくまハ憍曇弥
いたう祝ひ頂受しのゆゐ又同強ホ世尊告るふ未来世にり比尼

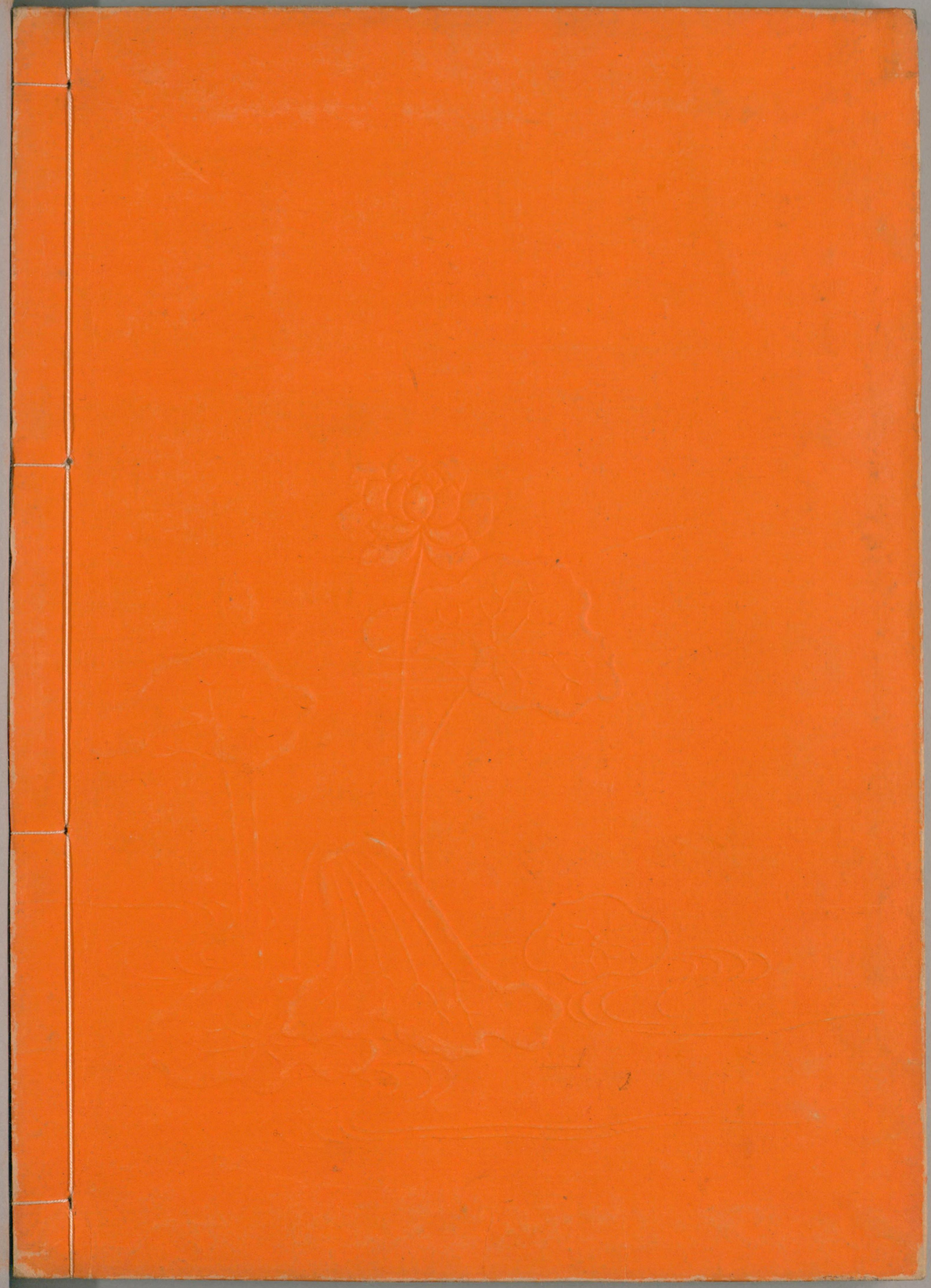
およひ善女人あしぱ常に志心ホ阿難む恩を念じ名を稱し供
養すべし阿難大威神力をもて多ホ応じて守りたすけんと
告るふかくて摩訶波闍波提等ゐとおよそ
ゑゐぱむれホ道すおれまゐらせこるきそいやしきそも志しあ弘女
ハ出家し多くハ阿羅漢む果をおるひみなとをにもろく若後宮后
妃などの原法む師とりて世に利益をろくおもしまゆしとで記す
弘老おをむにか添大徳はをんなむて世るむ化を
たすをまゐらせのひ仏法むきずとゐるふことは露おもきでら
免どせるは未む世までをおぼしおもひ亜せのへはいと深く戒めのふ
もむなら今む世の中ゆておづふめむ人む女乃ひとしなのをうえる

にまことに多き恵(ちえ)の至(いた)りなり。我慢(がまん)を
とうおまかにこげおおよびほこりを出家(しゅっけ)すれども世(よ)をおもしろ
がるせさを弥(いや)しめんことをおそれ摩訶波闍波提(まかはじゃはだい)比丘尼(びくに)
みむきて世間(せけん)のそうぞうしき大僧(だいそう)をうやまい給(たま)うべし
ふはいとうすうなるゆうで尼中第一(にちゅうだいいち)おもみなの仏法五百年(ぶっぽうごひゃくねん)
を減(げん)ずとおもひ世尊(せそん)一切智(いっさいち)おぼしめしこの事(こと)を恐(おそ)れおぼゆ
ほことをおもんずるまでも人(ひと)生(うま)れながら
おろかとも仏(ほとけ)かとみと阿難(あなん)等(など)者(しゃ)おぼしめし慈悲(じひ)
をすてて求(もと)めのぞみ給(たま)うおあふぎ奉(たてまつ)りたのも
多(おお)き所(ところ)をもて仏(ほとけ)天(てん)の上(うえ)にをき給(たま)う三宝(さんぼう)のごとくにちがくこと

をかなうおろかて威儀(いぎ)やくしうおそ
なくて三世諸仏(さんぜしょぶつ)のつまを傳(つた)へ
和上(わじょう)は此(この)八敬法(はっけうほう)をたもつとみれば
もちのきうおろかなる大恩(だいおん)おすてもせうこと
こひ給(たま)ふなりうこの大(だい)まん国(こく)より出家(しゅっけ)
匿王(くおう)もいとをやうきくおどろかせ
しあまこれこそなくばおぼつかなく
いでは仏法(ぶっぽう)のつひて後世(ごせ)までなさ
出(いだ)させのふおもひ中(ちゅう)をおもひやりたく
はん感涙(かんるい)おさえ勅(ちょく)して御園(ごその)をおいらひ伽藍(がらん)を

建立し後ち毎ふ斯寺王并園を供養し造立しのふゆゑ
に王園寺といふ尼僧坊ありけり兜率の五百の大尼聖に
天の福田として佛道のおほきを形らん移よ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『三世の光』　請求記号 182.85-Ko518m

ガラス使用